第6章 都市構造と鉄道利用に関する分析

第6章 都市構造と鉄道利用に関する分析

新たな国土形成計画においては、「対流促進型国土」を国土の基本構想とし、国土構造、地域構造の 方向性として重層的かつ強靭な「コンパクト&ネットワーク」、「東京一極集中の是正と東京圏の位置 づけ」等の方向性が示されている。

このような方向性を踏まえつつ、国勢調査等による居住地・従業地分布の変化の把握と合わせ、平成 27 年度の調査結果から把握された、都心・副都心への輸送需要変化(OD量の増加)に関する分析、臨 海部等の大規模開発と輸送需要変化との関係等の分析、沿線地域の人口変化と輸送需要変化との関係等の分析を行った。

なお、時系列集計を行うため、定期券発売実績による拡大マスターデータを使用し、分析対象は定期 券利用者としている。

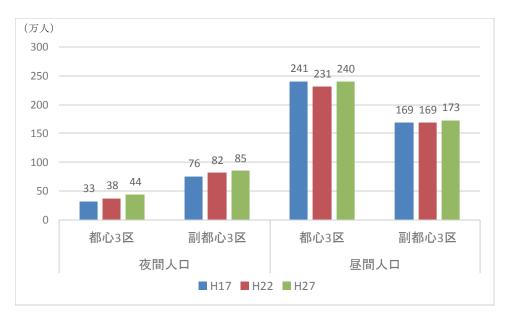
- ①都心・副都心への輸送需要変化に関する分析
- ②郊外部のまちづくりと輸送需要変化に関する分析
- ③業務核都市等の輸送需要変化に関する分析
- ④大規模開発と輸送需要変化に関する分析

6-1 都心・副都心への輸送需要変化に関する分析

(1)首都圏

①都心・副都心の人口推移

- ・ 都心3区、副都心3区の夜間人口はともに増加傾向であり、最近5年間の人口伸び率は都心3区が18%、副都心3区が4%となっている。人口増加数でみると、都心3区で約7万人、副都心3区で約3万人増加している。
- 昼間人口の伸び率は、最近5年間で、都心3区が4%、副都心3区が2%である。人口増加数でみると、都心3区で約9万人、副都心3区で約4万人増加している。



注)都心3区:千代田区、中央区、港区、副都心3区:新宿区、豊島区、渋谷区(以下同様)

図 6-1-1 都心・副都心の夜間人口・昼間人口の推移(首都圏)

資料:国勢調査

表 6-1-1 都心・副都心の夜間人口・昼間人口の推移(首都圏)

(単位:人)

区分	地域	H17	H22	H27	H22/H17	H27/H22	H22-H17	H27-H22
夜間人口 都心3区		326, 038	375, 008	442, 872	1. 15	1. 18	48, 970	67, 864
	副都心3区	759, 635	815, 479	849, 260	1.07	1.04	55, 844	33, 781
昼間人口	都心3区	2, 410, 055	2, 311, 346	2, 402, 456	0. 96	1.04	-98, 709	91, 110
登 同 八 口	副都心3区	1, 691, 372	1, 693, 813	1, 731, 804	1.00	1.02	2, 441	37, 991

資料:国勢調査

②都心・副都心の降車人員の変化

- 都心3区内の鉄道駅の降車人員は微増、副都心3区内の鉄道駅の降車人員はH22から H27に大きく増加している。
- 都心・副都心駅を最終降車駅とする利用者の出発地分布をみると、都心3区は副都心3区や23区内からの利用割合が高まっている。副都心3区は23区内や多摩東部からの利用割合が高まっている。

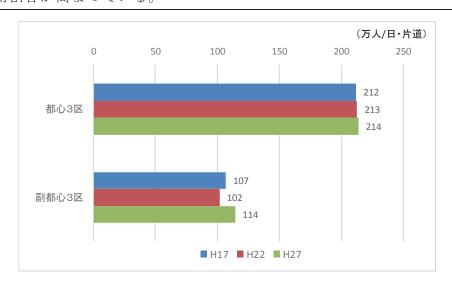


図 6-1-2 都心・副都心駅の降車人員の変化 (定期券利用) (首都圏)

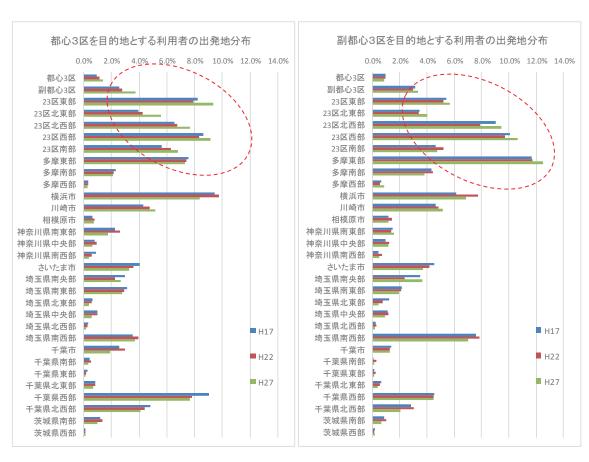
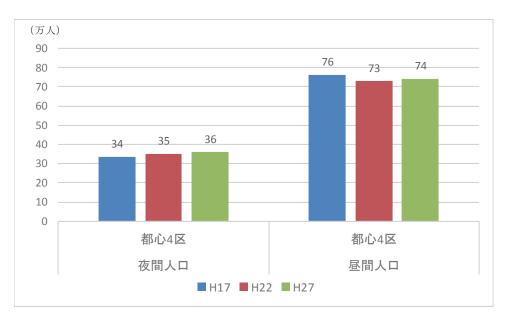


図 6-1-3 都心・副都心を目的地とする利用者の出発地分布の変化(定期券利用)(首都圏)

(2)中京圏

①都心の人口推移

- 都心4区の夜間人口は増加傾向であり、最近5年間の人口伸び率は2%となっている。 人口増加数でみると、約8千人増加している。
- 昼間人口の伸び率は、最近5年間で2%である。人口増加数でみると、約1.4万人増加している。



注)都心4区:名古屋市東区、中区、中村区、熱田区(以下同様)

図 6-1-4 都心の夜間人口・昼間人口の推移(中京圏)

資料:国勢調査

表 6-1-2 都心の夜間人口・昼間人口の推移(中京圏)

(単位:人)

区分	地域	H17	H22	H27	H22/H17	H27/H22	H22-H17	H27-H22
夜間人口	都心4区	337, 407	352, 508	360, 347	1.04	1.02	15, 101	7, 839
昼間人口	都心4区	763, 831	729, 600	744, 030	0.96	1.02	-34, 231	14, 430

資料:国勢調査

②都心の降車人員の変化

- 都心4区内の鉄道駅の最終降車人員は徐々に増加している。
- 都心4区を最終降車駅とする利用者の出発地分布をみると、名古屋市その他区部が最 も多い。都心4区内からの利用割合が高まっている。

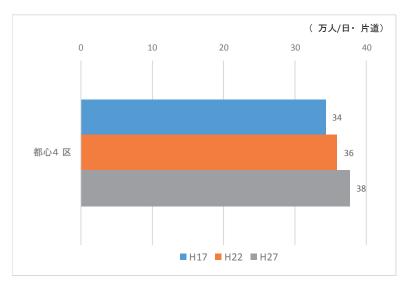


図 6-1-5 都心駅の降車人員の変化(定期券利用) (中京圏)

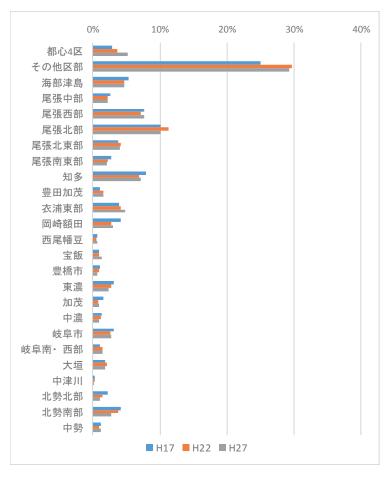
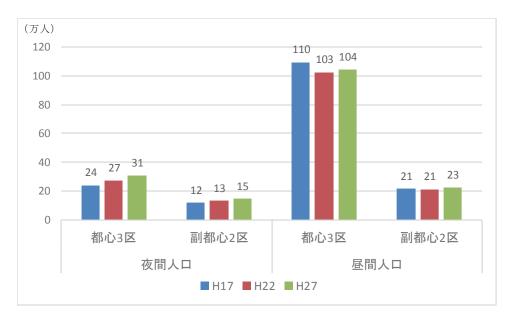


図 6-1-6 都心を目的地とする利用者の出発地分布の変化(定期券利用)(中京圏)

(3) 近畿圏

①都心・副都心の人口推移

- ・ 都心 3 区、副都心 2 区の夜間人口はともに増加傾向であり、最近 5 年間の人口伸び率は都心 3 区が 14%、副都心 2 区が 11%となっている。人口増加数でみると、都心 3 区で約 3.7 万人、副都心 2 区で約 1.4 万人増加している。
- 昼間人口の伸び率は、最近5年間で、都心3区が2%、副都心2区が6%である。人口増加数でみると、都心3区で約1.6万人、副都心2区で約1.2万人増加している。



注)都心3区:大阪市北区、中央区、西区、副都心2区:大阪市天王寺区、浪速区(以下同様)

図 6-1-7 都心・副都心の夜間人口・昼間人口の推移(近畿圏)

資料:国勢調査

表 6-1-3 都心・副都心の夜間人口・昼間人口の推移 (近畿圏)

(単位:人)

区分	地域	H17	H22	H27	H22/H17	H27/H22	H22-H17	H27-H22
夜間人口 都心3区		239, 794	272, 137	309, 166	1. 13	1. 14	32, 343	37, 029
	副都心2区	118, 311	131, 520	145, 495	1. 11	1. 11	13, 209	13, 975
昼間人口	都心3区	1, 096, 408	1, 026, 182	1, 042, 522	0. 94	1.02	-70, 226	16, 340
登 同 八 口	副都心2区	214, 747	213, 652	225, 558	0.99	1.06	-1,095	11, 906

資料:国勢調査

②都心・副都心の降車人員の変化

- 都心3区内の鉄道駅の降車人員は減少傾向、副都心2区内の鉄道駅の降車人員は増加 傾向である。
- 都心3区を最終降車駅とする利用者の出発地分布をみると、大阪市区部(都心・副都 心除く)や大阪北東部からの利用割合が高まっている。

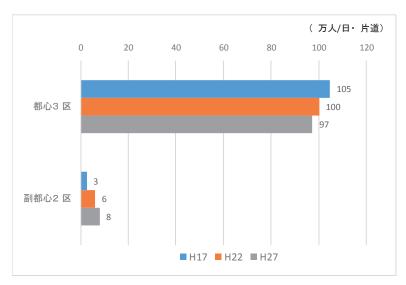


図 6-1-8 都心・副都心駅の降車人員の変化 (定期券利用) (近畿圏)

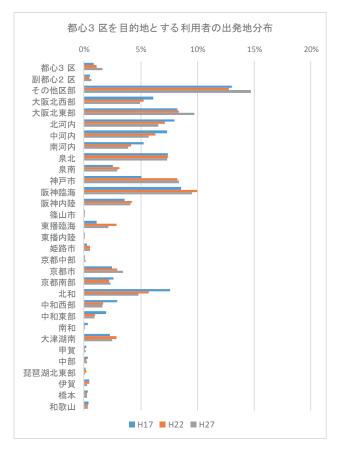


図 6-1-9 都心を目的地とする利用者の出発地分布の変化(定期券利用)(近畿圏)

6-2 郊外部のまちづくりと輸送需要変化に関する分析

(1)首都圏

①地域ブロック別人口の推移

- ・ 地域ブロック別人口の最近5年間の推移をみると、夜間人口は多くの地域で増加しているが、就業・就学人口は全地域で減少している。
- 従業・通学人口は、都心3区、川崎市、埼玉県や千葉県の一部地域のみ増加している。

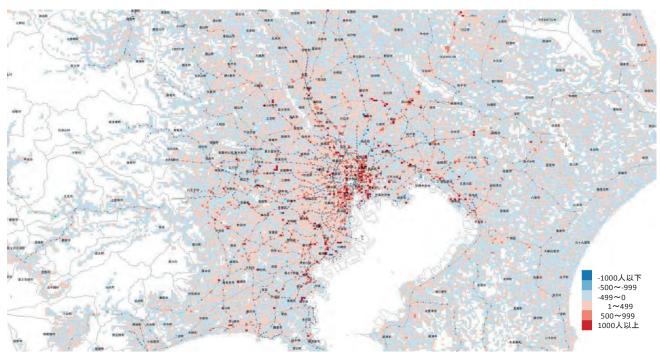
表 6-2-1 地域ブロック別人口の推移

(単位:人)

		夜間人口		京	扰業∙就学人口]	í	芷業∙通学人 □	(単位:人)]
	H22	H27	H27/H22	H22	H27	H27/H22	H22	H27	H27/H22
都心3区	375,008	442,872	1.181	192,493	173,648	0.902	2,119,759	2,132,119	1.006
副都心3区	815,479	849,260	1.041	369,806	343,475	0.929	1,225,642	1,223,009	0.998
23区東部	1,829,978	1,878,594	1.027	993,423	929,921	0.936	890,658	864,300	0.970
23区北東部	1,269,276	1,300,183	1.024	654,154	577,172	0.882	790,748	722,518	0.914
23区北西部	1,587,492	1,624,714	1.023	812,850	721,865	0.888	586,901	532,802	0.908
23区西部	1,741,457	1,795,558	1.031	855,135	796,166	0.931	655,493	643,669	0.982
23区南部	1,327,005	1,381,559	1.041	702,192	690,202	0.983	847,985	835,705	0.986
多摩東部	2,370,518	2,394,732	1.010	1,310,308	1,271,217	0.970	1,020,975	1,011,540	0.991
多摩南部	1,419,575	1,430,411	1.008	784,717	746,077	0.951	674,628	663,834	0.984
多摩西部	395,785	390,897	0.988	225,649	203,202	0.901	184,130	170,349	0.925
横浜市	3,688,773	3,724,844	1.010	2,154,372	2,009,290	0.933	1,760,839	1,687,788	0.959
川崎市	1,425,512	1,475,213	1.035	796,245	793,624	0.997	610,519	615,484	1.008
相模原市	1,424,469	1,425,593	1.001	805,297	776,078	0.964	635,475	622,720	0.980
神奈川県南東部	936,044	943,880	1.008	555,408	527,439	0.950	497,129	486,524	0.979
神奈川県中央部	840,766	821,966	0.978	507,629	452,051	0.891	445,641	400,840	0.899
神奈川県南西部	717,544	720,780	1.005	420,721	389,400	0.926	316,265	302,032	0.955
さいたま市	1,978,521	2,050,501	1.036	1,191,292	1,137,800	0.955	938,633	912,576	0.972
埼玉県南央部	1,252,758	1,272,002	1.015	737,531	719,016	0.975	523,646	532,129	1.016
埼玉県南東部	524,883	515,442	0.982	322,375	306,537	0.951	247,803	249,304	1.006
埼玉県北東部	529,658	529,055	0.999	322,018	309,969	0.963	222,454	219,525	0.987
埼玉県中央部	472,290	462,206	0.979	286,284	270,890	0.946	266,555	255,101	0.957
埼玉県北西部	2,389,744	2,394,024	1.002	1,417,171	1,347,987	0.951	1,102,134	1,085,439	0.985
埼玉県南西部	961,749	971,882	1.011	537,366	520,904	0.969	492,634	497,106	1.009
千葉市	577,957	572,962	0.991	332,803	323,955	0.973	297,346	297,440	1.000
千葉県南部	287,754	277,872	0.966	169,881	156,027	0.918	135,708	127,463	0.939
千葉県東部	645,275	639,359	0.991	385,507	365,270	0.948	315,355	309,987	0.983
千葉県北東部	1,858,521	1,892,968	1.019	1,080,657	1,049,594	0.971	766,278	763,104	0.996
千葉県西部	1,341,961	1,356,996	1.011	773,835	750,709	0.970	533,247	536,777	1.007
千葉県北西部	1,055,208	1,053,035	0.998	629,367	611,822	0.972	562,465	565,351	1.005
茨城県南部	473,519	458,985	0.969	293,839	279,862	0.952	262,947	255,962	0.973
茨城県西部	105,523	102,726	0.973	64,752	61,845	0.955	61,517	61,077	0.993
合計	36,620,002	37,151,071	1.015	20,685,077	19,613,014	0.948	19,991,509	19,583,574	0.980

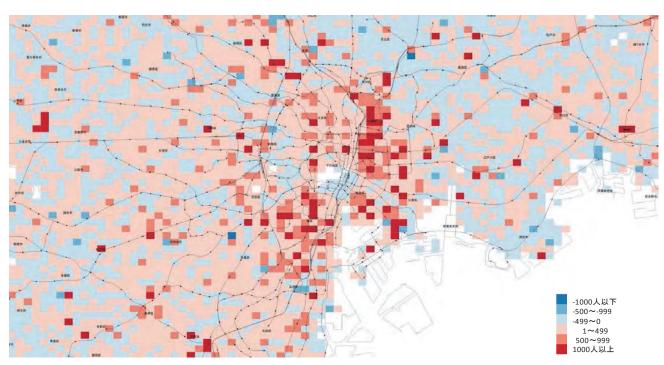
資料:国勢調査

• 平成 22 年から平成 27 年にかけての 500mメッシュ別人口の変化をみると、都心部や 鉄道駅周辺において人口増加がみられる。一方で、郊外部は人口が減少したメッシュ が多く分布している。



資料:国勢調査

図 6-2-1 500mメッシュ別人口の変化(H27-H22) (首都圏)



資料:国勢調査

図 6-2-2 500mメッシュ別人口の変化(H27-H22) (都心拡大図) (首都圏)

②地域ブロック別発生量・集中量の推移

- 定期券利用者の伸び率を地域ブロック別にみると、圏域の郊外地域に発生量が減少した地域が多くみられる。一方、集中量は多くの地域で増加している。
- 発生量、集中量がともに減少したのは埼玉県南西部のみである。

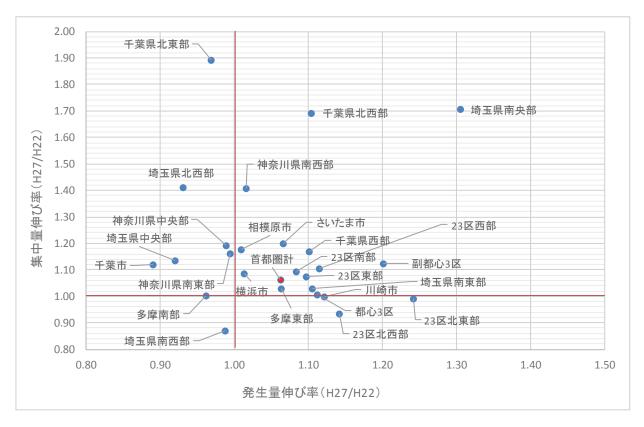


図 6-2-3 地域ブロック別発生量・集中量の推移(定期券利用)

- 注) 発生・集中量が 5000 人未満の地域は除く (多摩西部、千葉県南部、千葉県東部、茨城県西部)
- 注) 千葉県北東部は平成27年調査から調査対象駅として成田空港駅が追加されたことにより、今まで捉えられなかった空港への通勤者のサンプルが多く捉えられていると考えられる。千葉県北西部は近年

増加が著しいつくばエクスプレスの利用 者増加の影響が考えられる。埼玉県南央部 はさいたま新都心や武蔵浦和地区を含み、 夜間・昼間人口ともに増加している地域で ある。



参考 地域区分図

③地域ブロック別流動種類別利用者数の推移

• 地域ブロック間OD量の伸び率を、地域内々と地域内外の流動種類別にみると、多くの地域で地域内外に比べ、地域内々の定期券利用者が増加している。地域内外の伸び率の方が大きいのは、23区内の3地域や川崎市等の地域のみであり、定期券利用のODが短距離化する傾向がみられる。

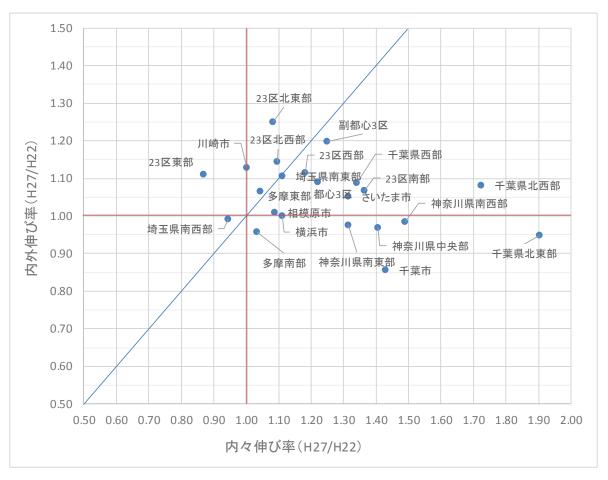


図 6-2-4 地域ブロック別流動種類別利用者数の推移(定期券利用)

(2)中京圏

①地域ブロック別人口の推移

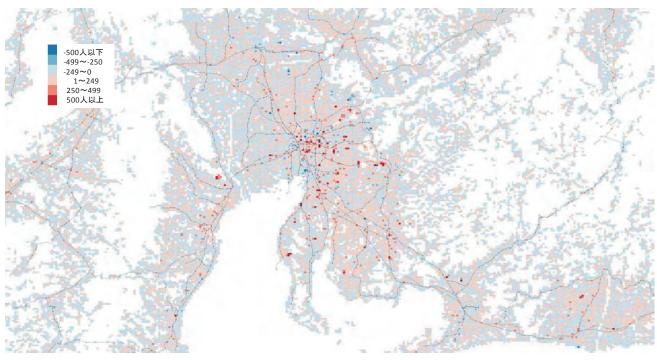
- 地域ブロック別人口の最近5年間の推移をみると、夜間人口は名古屋市を含む愛知県 内で増加した地域が多い。
- 就業・就学人口は最近5年間では減少した地域が多い。従業・通学人口は、概ね横ばいの地域が多くみられるが、尾張中部、尾張南東部、衣浦東部地域で3%以上の増加となっている。

表 6-2-2 地域ブロック別人口の推移(中京圏)

		夜間人口		就	業·就学人	П	従	業·通学人	
	H22	H27	H27/H22	H22	H27	H27/H22	H22	H27	H27/H22
都心4区	352,508	360,347	1.02	193,474	190,502	0.98	563,313	573,303	1.02
その他区部	1,911,386	1,935,291	1.01	1,112,069	1,087,181	0.98	1,000,864	992,374	0.99
海部津島	331,326	329,158	0.99	205,977	201,635	0.98	160,915	161,637	1.00
尾張中部	161,733	166,637	1.03	99,811	99,435	1.00	88,102	91,622	1.04
尾張西部	515,008	517,735	1.01	315,931	309,454	0.98	249,577	250,437	1.00
尾張北部	730,973	733,279	1.00	442,248	429,259	0.97	404,007	402,653	1.00
尾張北東部	213,364	209,833	0.98	127,357	123,174	0.97	96,573	95,395	0.99
尾張南東部	247,855	257,560	1.04	155,838	157,202	1.01	138,681	143,126	1.03
知多	614,794	620,905	1.01	387,810	379,486	0.98	343,061	339,588	0.99
豊田加茂	481,585	484,352	1.01	303,291	296,537	0.98	341,703	342,300	1.00
衣浦東部	508,915	521,988	1.03	325,413	324,720	1.00	338,800	350,320	1.03
岡崎額田	410,287	420,600	1.03	259,200	264,237	1.02	232,995	237,001	1.02
西尾幡豆	165,298	167,990	1.02	108,475	108,533	1.00	99,432	101,659	1.02
宝飯	264,177	263,536	1.00	168,382	165,795	0.98	151,963	150,001	0.99
豊橋市	376,665	374,765	0.99	234,422	231,156	0.99	221,578	219,854	0.99
東濃	267,175	258,071	0.97	165,249	157,453	0.95	138,528	136,711	0.99
加茂	207,504	207,180	1.00	127,198	126,361	0.99	113,741	114,091	1.00
中濃	289,280	281,717	0.97	180,259	174,281	0.97	162,256	162,702	1.00
岐阜市	413,136	406,735	0.98	251,199	240,802	0.96	262,965	253,645	0.96
岐阜南·西部	219,202	221,227	1.01	136,409	136,532	1.00	109,629	109,619	1.00
大垣	385,021	372,399	0.97	236,666	228,854	0.97	213,977	208,683	0.98
中津川	80,910	78,883	0.97	48,090	48,277	1.00	46,865	47,130	1.01
北勢北部	218,490	217,819	1.00	138,043	134,556	0.97	122,573	123,589	1.01
北勢南部	570,666	572,956	1.00	346,709	337,524	0.97	331,434	329,323	0.99
中勢	285,746	279,886	0.98	167,825	162,700	0.97	174,172	171,084	0.98
中京圏	10,223,004	10,260,849	1.00	6,237,345	6,115,646	0.98	6,107,704	6,107,847	1.00

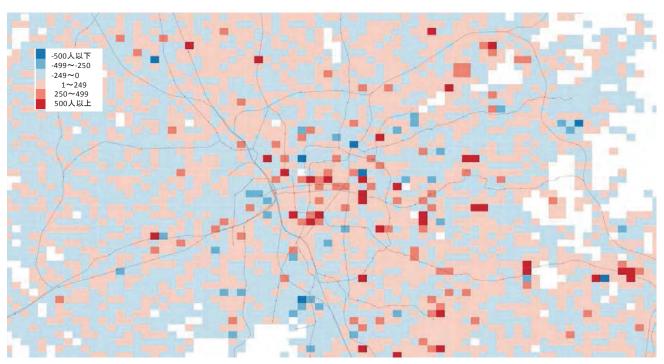
資料:国勢調査

• 平成22年から平成27年にかけての500mメッシュ別人口の変化をみると、名古屋市 内や周辺主要都市において500人以上人口が増加したメッシュが点在している。一方 で、郊外部は人口が減少したメッシュが多く分布している。



資料:国勢調査

図 6-2-5 500mメッシュ別人口の変化(H27-H22) (中京圏)



資料:国勢調査

図 6-2-6 500mメッシュ別人口の変化 (H27-H22) (都心拡大図) (中京圏)

②地域ブロック別発生量・集中量の推移

- 定期券利用者の伸び率を地域ブロック別にみると、都心4区、衣浦東部、知多等で、 発生量、集中量ともに増加している。
- 岡崎額田、岐阜南・西部、岐阜市、北勢南部、東濃は発生量、集中量がともに減少している。

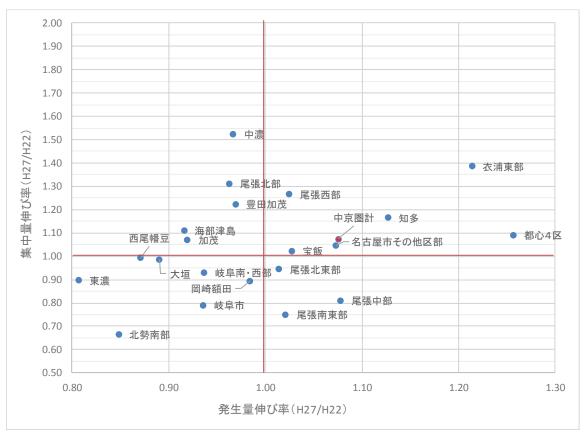


図 6-2-7 地域ブロック別発生量・集中量の推移(定期券利用)(中京圏)



参考 地域区分図

③地域ブロック別流動種類別利用者数の推移

・ 地域ブロック間OD量の伸び率を、地域内々と地域内外の流動種類別にみると、多くの地域で地域内外に比べ、地域内々の定期券利用者が増加している。地域内外の伸び率の方が大きく、かつ増加しているのは名古屋市その他区部、知多、北勢南部のみである。全体的に定期券利用のODが短距離化する傾向がみられる。

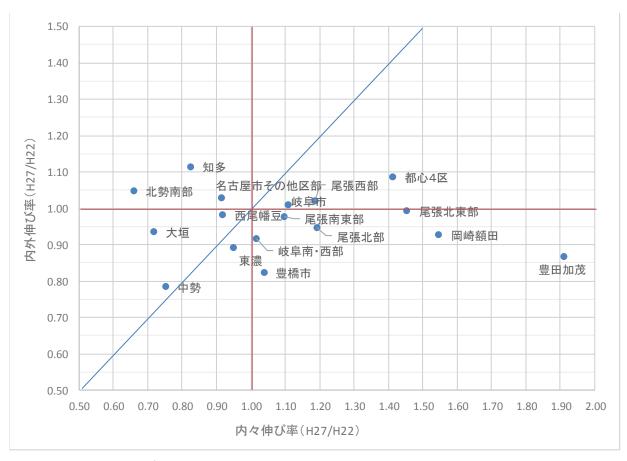


図 6-2-8 地域ブロック別流動種類別利用者数の推移(定期券利用)(中京圏)

(3) 近畿圏

①地域ブロック別人口の推移

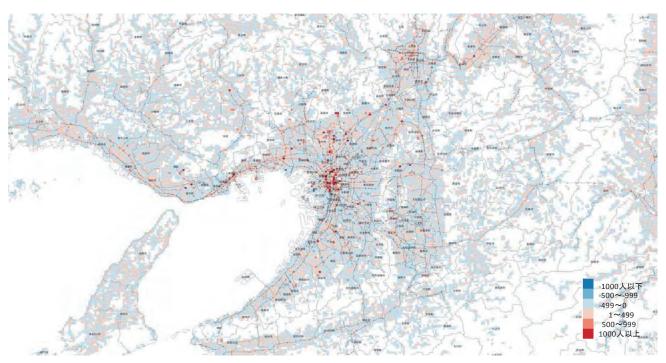
- 地域ブロック別人口の最近5年間の推移をみると、夜間人口は都心・副都心を含む9 地域で増加しているが、就業・就学人口は琵琶湖東北部以外の全ての地域で減少している。
- 従業・通学人口は、滋賀県の3地域等で増加している。

表 6-2-3 地域ブロック別人口の推移(近畿圏)

		夜間人口		就	業·就学人	П	従	業·通学人	
	H22	H27	H27/H22	H22	H27	H27/H22	H22	H27	H27/H22
都心3区	272,137	309,166	1.14	137,341	135,364	0.99	885,375	867,998	0.98
副都心2区	131,520	145,495	1.11	60,891	56,882	0.93	139,427	136,447	0.98
その他区部	2,261,657	2,236,524	0.99	1,178,467	1,016,263	0.86	1,151,765	1,046,064	0.91
大阪北西部	657,104	662,149	1.01	370,432	358,448	0.97	280,567	276,871	0.99
大阪北東部	1,100,634	1,121,320	1.02	622,845	612,756	0.98	534,494	534,507	1.00
北河内	1,185,935	1,164,015	0.98	650,501	597,082	0.92	539,865	496,566	0.92
中河内	855,766	842,696	0.98	467,422	424,777	0.91	446,695	421,956	0.94
南河内	636,008	612,886	0.96	355,128	326,369	0.92	258,951	245,893	0.95
泉北	1,182,223	1,175,143	0.99	648,019	628,099	0.97	532,025	533,102	1.00
泉南	582,261	570,075	0.98	328,402	312,099	0.95	265,975	259,170	0.97
神戸市	1,544,200	1,537,272	1.00	842,678	810,995	0.96	855,825	840,690	0.98
阪神臨海	1,225,753	1,232,646	1.01	692,624	642,521	0.93	561,240	537,902	0.96
阪神内陸	528,078	524,807	0.99	299,652	288,971	0.96	197,183	194,917	0.99
篠山市	43,263	41,490	0.96	26,849	25,390	0.95	23,894	22,834	0.96
東播臨海	716,006	716,633	1.00	406,971	397,714	0.98	331,718	329,952	0.99
東播内陸	130,689	125,758	0.96	78,874	73,726	0.93	73,638	73,253	0.99
姫路市	536,270	535,664	1.00	314,554	308,225	0.98	315,446	309,912	0.98
京都中部	127,613	122,624	0.96	78,787	72,470	0.92	64,568	60,710	0.94
京都市	1,474,015	1,475,183	1.00	832,125	761,415	0.92	924,147	890,375	0.96
京都南部	709,725	703,923	0.99	411,240	394,422	0.96	317,553	315,714	0.99
北和	790,283	776,885	0.98	444,050	427,988	0.96	359,604	356,636	0.99
中和西部	304,621	299,098	0.98	171,715	165,534	0.96	123,341	120,389	0.98
中和東部	219,978	212,460	0.97	120,787	115,408	0.96	95,276	93,686	0.98
南和	62,278	56,465	0.91	35,065	31,623	0.90	31,607	30,122	0.95
大津湖南	658,678	674,717	1.02	398,135	395,808	0.99	366,668	364,417	0.99
甲賀	147,318	145,190	0.99	93,195	90,117	0.97	87,422	87,816	1.00
中部	233,003	229,799	0.99	144,763	141,808	0.98	129,673	131,182	1.01
琵琶湖東北部	155,101	156,273	1.01	94,036	94,849	1.01	93,615	95,588	1.02
伊賀	177,491	169,376	0.95	105,867	100,965	0.95	96,527	95,600	0.99
橋本	75,299	71,350	0.95	44,853	41,931	0.93	33,311	31,958	0.96
和歌山	489,086	480,222	0.98	277,523	268,034	0.97	272,278	266,708	0.98
近畿圏	19,213,993	19,127,304	1.00	10,733,791	10,118,053	0.94	10,389,673	10,068,935	0.97

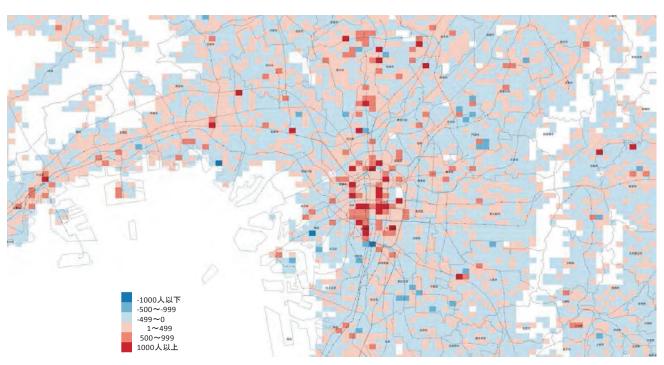
資料:国勢調査

• 平成22年から平成27年にかけての500mメッシュ別人口の変化をみると、都心部や 周辺主要都市において人口増加がみられる。一方で、郊外部は人口が減少したメッシュが多く分布している。



資料:国勢調査

図 6-2-9 500mメッシュ別人口の変化(H27-H22) (近畿圏)



資料:国勢調査

図 6-2-10 500mメッシュ別人口の変化(H27-H22) (都心拡大図) (近畿圏)

②地域ブロック別発生量・集中量の推移

- 定期券利用者の伸び率を地域ブロック別にみると、神戸市や大阪北東部で発生量、集中量ともに増加している。中和西部、東播磨臨海等では発生量は減少したが、集中量は増加している。
- 橋本、中和東部地域等では発生量、集中量がともに減少している。

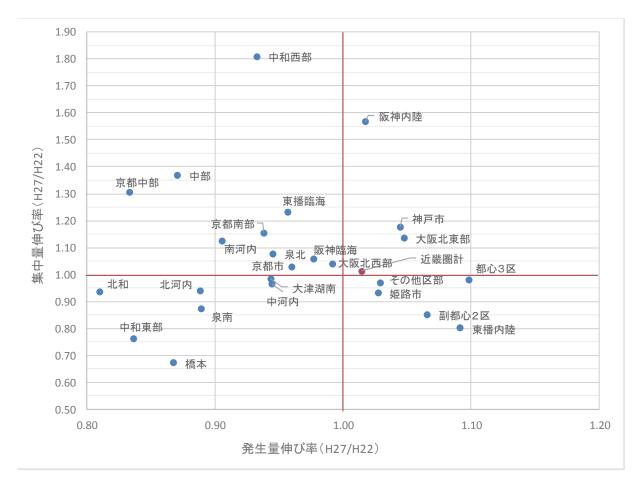


図 6-2-11 地域ブロック別発生量・集中量の推移(定期券利用)(近畿圏)

注) 発生・集中量がともに 5000 人未満の地域は除く(兵庫県篠山市、奈良県南和)



参考 地域区分図

③地域ブロック別流動種類別利用者数の推移

・ 地域ブロック間OD量の伸び率を、地域内々と地域内外の流動種類別にみると、多くの地域で地域内外に比べ、地域内々の定期券利用者が増加している。地域内外の伸び率の方が大きく、かつ増加しているのは副都心2区のみである。全体的に定期券利用のODが短距離化する傾向がみられる。

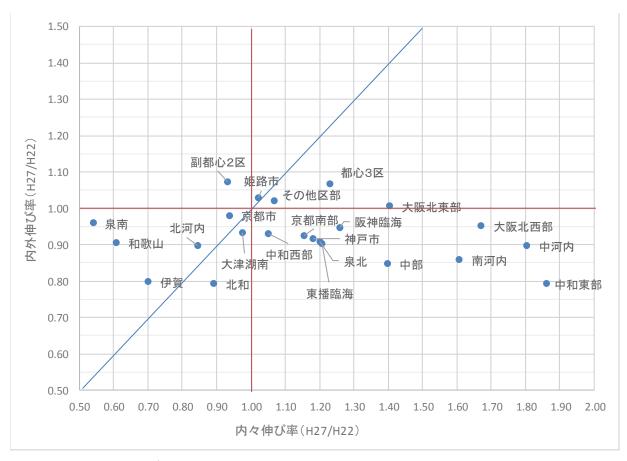


図 6-2-12 地域ブロック別流動種類別利用者数の推移(定期券利用)(近畿圏)

6-3 業務核都市等の輸送需要変化に関する分析

(1)首都圏

①分析対象地域(業務核都市等)

• 分析対象とする地域及び分析対象ゾーンは以下のとおりである。

分析対象地域	分析対象ゾーン
横浜市(西区・中区)	横浜市西区・中区全域
川崎市(川崎区)	川崎市川崎区全域
八王子市·立川市·多摩市	八王子市・立川市・多摩市の一部
町田市·相模原市	町田市・相模原市の一部
さいたま市(中央区)	さいたま市中央区全域
千葉市(美浜区)	千葉市美浜区全域
都心3区(千代田区・中央区・港区)	千代田区•中央区•港区全域
副都心3区(新宿区・渋谷区・豊島区)	新宿区·渋谷区·豊島区全域

表 6-3-1 分析対象地域及び分析対象ゾーン

②都市別発生量・集中量の変化

- 定期券利用の発生量は、川崎市(川崎区)、町田市・相模原市等で増加、さいたま市(中央区)や千葉市(美浜区)で減少している。
- 定期券利用の集中量は、さいたま市(中央区)、千葉市(美浜区)、副都心3区で増加 が顕著である。



図 6-3-1 都市別発生量・集中量の変化(定期券利用) (首都圏)

③発生量・集中量の伸び率による都市の類型化

• 業務核都市を発生量、集中量の伸び率で類型化すると、町田市・相模原市、副都心3区、 横浜市は、発生量・集中量ともに増加しており、居住地・業務地として成長傾向、さいた ま市、千葉市は発生量は減少、集中量が増加しており、業務地としての成長傾向がみられ る。

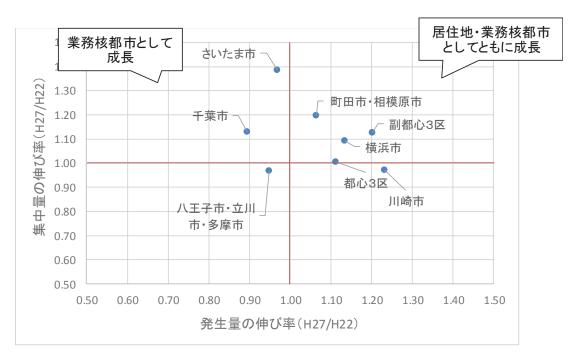


図 6-3-2 都市別発生量・集中量の伸び率のプロット図 (定期券利用) (首都圏)

表 6-3-2 都市別人口の変化(首都圏)

									(単位:人)
		夜間人口		京	オ業・就学人口		従業・通学人口		
	H22	H27	H27/H22	H22	H27	H27/H22	H22	H27	H27/H22
横浜市(西区、中区)	240,900	246,844	1.025	127,770	120,339	0.942	294,886	295,093	1.001
川崎市(川崎区)	217,328	223,378	1.028	116,917	110,763	0.947	154,620	152,150	0.984
八王子市·立川市·多摩市	907,369	900,439	0.992	497,896	465,682	0.935	499,029	487,808	0.978
町田市·相模原市	1,144,531	1,153,128	1.008	650,530	609,323	0.937	499,611	484,318	0.969
さいたま市(中央区)	96,055	98,762	1.028	57,506	54,501	0.948	53,773	52,889	0.984
千葉市(美浜区)	150,162	148,718	0.990	86,570	80,642	0.932	103,015	104,227	1.012
都心3区	375,008	442,872	1.181	192,493	173,648	0.902	2,119,759	2,132,119	1.006
副都心3区	815,479	849,260	1.041	369,806	343,475	0.929	1,225,642	1,223,009	0.998

④都市への平均所要時間の変化

• 各業務核都市への通勤の平均所要時間の推移をみると、さいたま市、千葉市等で平均 所要時間が短くなる傾向がみられる。その他の都市は大きな変化はみられない。

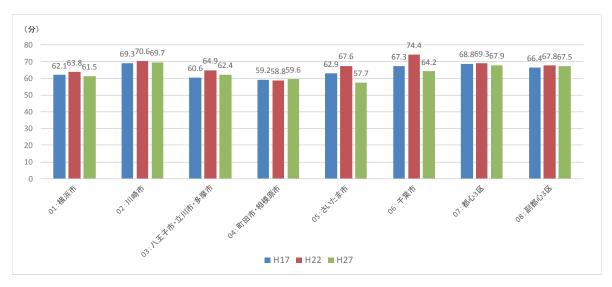


図 6-3-3 都市への平均所要時間の変化 (通勤定期券利用) (首都圏)

(2)中京圏

①分析対象地域(業務核都市等)

• 分析対象とする地域及び分析対象ゾーンは以下のとおりである。

表 6-3-3 分析対象地域及び分析対象ゾーン

分析対象地域	分析対象ゾーン
豊田市	豊田市の一部(市街地)
都心4区	名古屋市東区、中村区、中区、熱田 区全域

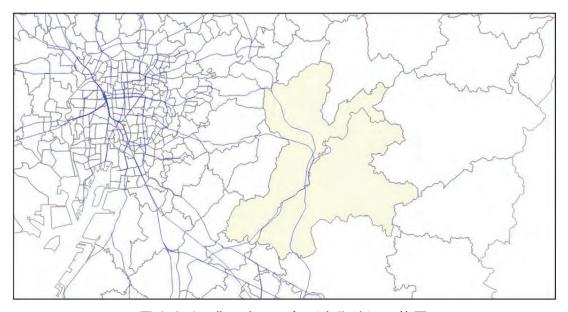


図 6-3-4 豊田市の一部(市街地)の範囲

②都市別発生量・集中量の変化

- 定期券利用者の集中量は、豊田市、都心4区ともに増加している。
- 発生量は、最近5年間では、豊田市は減少、都心4区は増加している。



図 6-3-5 都市別発生量・集中量の変化(定期券利用)(中京圏)

③発生量・集中量の伸び率による都市の類型化

• 業務核都市を発生量、集中量の伸び率で類型化すると、都心4区は、発生量・集中量とも に増加しており、居住地・業務地として成長、豊田市は発生量は減少、集中量は増加して おり、業務核都市として成長している。

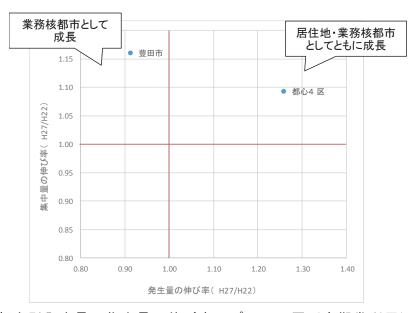


図 6-3-6 都市別発生量・集中量の伸び率のプロット図 (定期券利用) (中京圏)

表 6-3-4 都市別人口の変化(中京圏)

	夜間人口			就	業·就学人		従業·通学人口			
	H22	H27	H27/H22	H22	H27	H27/H22	H22	H27	H27/H22	
豊田市(全域)	421,487	422,542	1.00	265,810	257,464	0.97	299,165	301,273	1.01	
都心4区	352,508	360,347	1.02	193,474	190,502	0.98	563,313	573,303	1.02	

④出発地分布の変化

- 業務核都市への通勤定期券利用者の変化を出発地域別にみると、都心4区は、名古屋市その他区部からの集中量が増加している。
- 豊田市は豊田加茂以外に名古屋市その他区部からの集中量が多い。

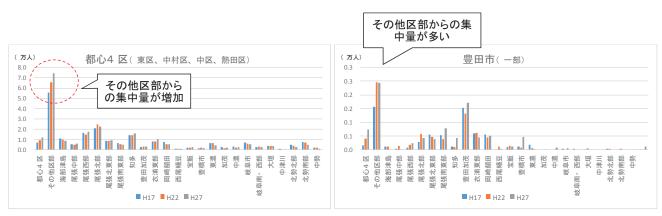


図 6-3-7 出発地域別集中量の変化(通勤定期券利用) (中京圏)

(3) 近畿圏

①分析対象地域(業務核都市等)

• 分析対象とする地域及び分析対象ゾーンは以下のとおりである。

表 6-3-5 分析対象地域及び分析対象ゾーン

分析対象地域	分析対象ゾーン
神戸市	神戸市中央区
京都市	京都市上京区、中京区、下京区
都心3区	大阪市北区、中央区、西区
副都心2区	大阪市天王寺区、浪速区
堺市	堺市全域

注) 堺市は H17 時点で政令指定都市ではない(区分けされていない) ため、全域で 集計した。

②都市別発生量・集中量(定期券利用者)の変化

- 定期券利用の発生量は、都心3区、副都心2区、神戸市、京都市で増加している。
- 定期券利用の集中量は、神戸市での増加が顕著であり、京都市、都心3区は近年5年間では横ばい、副都心2区はやや減少傾向である。

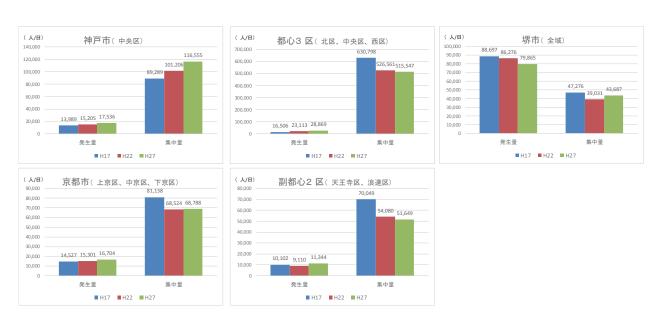


図 6-3-8 都市別発生量・集中量の変化(定期券利用) (近畿圏)

③発生量・集中量の伸び率による都市の類型化

• 業務核都市を発生量、集中量の伸び率で類型化すると、神戸市は、発生量・集中量とも に増加しており、居住地・業務地として成長傾向、京都市、都心3区は発生量は増加、 集中量は横ばいとなっている。堺市は集中量が増加し、業務地として成長傾向となって いる。

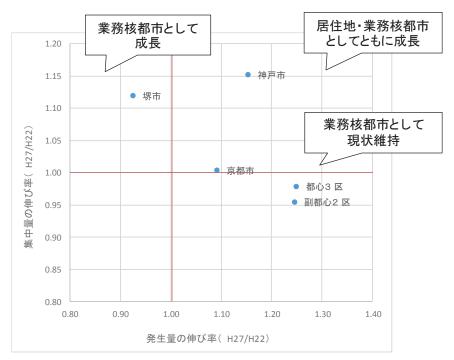


図 6-3-9 都市別発生量・集中量の伸び率のプロット図 (定期券利用) (近畿圏)

表 6-3-6 都市別人口の変化(近畿圏)

		夜間人口		就	業∙就学人	П	従業・通学人口			
	H22	H27	H27/H22	H22	H27	H27/H22	H22	H27	H27/H22	
神戸市(中央区)	126,393	135,153	1.069	63,116	62,279	0.987	211,605	212,416	1.004	
京都市3区	267,857	277,122	1.035	152,227	144,634	0.950	267,297	266,459	0.997	
都心3区	272,137	309,166	1.136	137,341	135,364	0.986	885,375	867,998	0.980	
副都心2区	131,520	145,495	1.106	60,891	56,882	0.934	139,427	136,447	0.979	
堺市(全域)	841,966	839,310	0.997	457,981	445,343	0.972	387,723	388,036	1.001	

④出発地分布の変化

- 業務核都市への通勤定期券利用者の変化を出発地域別にみると、神戸市は、市内から の集中量が増加している。
- 都心3区、副都心2区は、広範な地域から集中しているが、減少している地域が多い。



図 6-3-10 出発地域別集中量の変化(通勤定期券利用)(近畿圏)

6-4 大規模開発と輸送需要変化に関する分析

(1)首都圏

①分析対象地区·駅

分析対象とする地区及び駅は以下のとおりである。

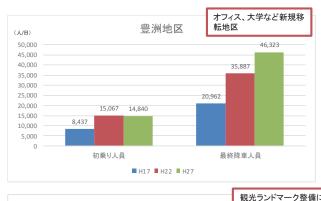
- 豊洲地区
- ・東京スカリツリー地区
- · 武蔵小杉地区

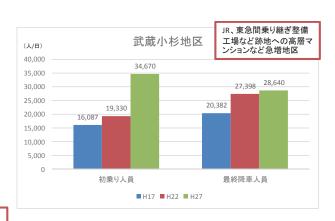
表 6-4-1 分析対象地区及び駅

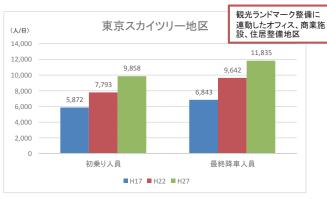
	地区名	事業者名	路線名	駅名
H27	豊洲地区	東京地下鉄	有楽町線	豊洲
		ゆりかもめ	東京臨海新交通臨海線	豊洲
		東武鉄道	伊勢崎線(1)	とうきょうスカイツリー
	東京スカイツリー地区	東京地下鉄	半蔵門線	押上
		東武鉄道	伊勢崎線(2)	押上
		東京都交通局	浅草線	押上
		東日本旅客鉄道	南武線	武蔵小杉
		東日本旅客鉄道	横須賀線	武蔵小杉
	武蔵小杉地区	東日本旅客鉄道	湘南新宿ライン	武蔵小杉
		東京急行電鉄	東横線	武蔵小杉
		東京急行電鉄	目黒線	武蔵小杉
	地区名	事業者名	路線名	駅名
H22	豊洲地区	東京地下鉄	有楽町線	豊洲
	显洲地區	ゆりかもめ	東京臨海新交通臨海線	豊洲
		東武鉄道	伊勢崎線(1)	業平橋
	東京スカイツリー地区	東京都交通局	浅草線	押上
	東京へがイブリー地区	東京地下鉄	半蔵門線	押上
		東武鉄道	伊勢崎線(2)	押上
	武蔵小杉地区	東日本旅客鉄道	南武線	武蔵小杉
		東日本旅客鉄道	横須賀線	武蔵小杉
		東日本旅客鉄道	湘南新宿ライン	武蔵小杉
		東京急行電鉄	東横線	武蔵小杉
		東京急行電鉄	目黒線	武蔵小杉
	地区名	事業者名	路線名	駅名
H17	豊洲地区	東京地下鉄	有楽町線	豊洲
	東京スカイツリー地区	東武鉄道	伊勢崎線	業平橋
		東京都交通局	浅草線	押上
		東京地下鉄	半蔵門線	押上
		東武鉄道	伊勢崎線	押上
	武蔵小杉地区	東日本旅客鉄道	南武線	武蔵小杉
		東京急行電鉄	東横線	武蔵小杉
		東京急行電鉄	目黒線	武蔵小杉

②地区別初乗り人員・最終降車人員の変化

- 豊洲地区では、最終降車人員が最近5年間で約1.3倍に増加した。
- 東京スカイツリー地区では、初乗り・最終降車人員がそれぞれ約 1.3 倍、1.2 倍に増加 した。
- 武蔵小杉地区では、初乗り人員が最近5年間で約1.8倍に大きく増加した。







(単位:人/日)

					(ナル・ノベ) ロノ
地区	区分	H17	H22	H27	H27/H22
豊洲地区	初乗り人員	8,437	15,067	14,840	0.98
	最終降車人員	20,962	35,887	46,323	1.29
東京スカイツリー地区	初乗り人員	5,872	7,793	9,858	1.26
	最終降車人員	6,843	9,642	11,835	1.23
武蔵小杉地区	初乗り人員	16,087	19,330	34,670	1.79
	最終降車人員	20,382	27,398	28,640	1.05

図 6-4-1 大規模開発地区の周辺駅の初乗り・最終降車人員の推移(定期券利用者)

③最終降車人員の居住地分布、初乗り人員の目的地分布の変化

- 各地区の最終降車人員の出発地、又は初乗り人員の目的地の3時点の推移をみると、豊 洲地区ではその他23区やその他千葉県からの定期券利用者が大きく増加している。
- 武蔵小杉地区は、都心3区やその他23区を目的地とする定期券利用者が大きく増加している。

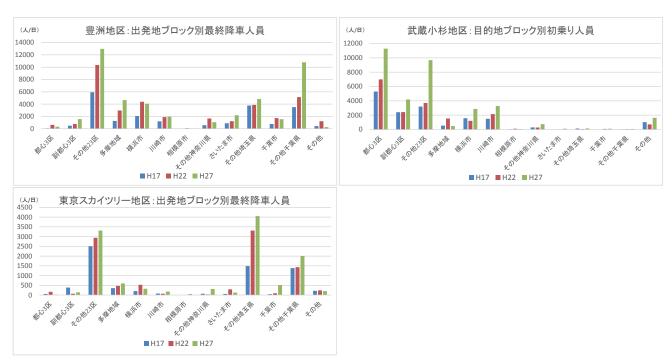


図 6-4-2 各地区の最終降車人員の居住地分布、又は初乗り人員の目的地分布の推移(定期券利用)

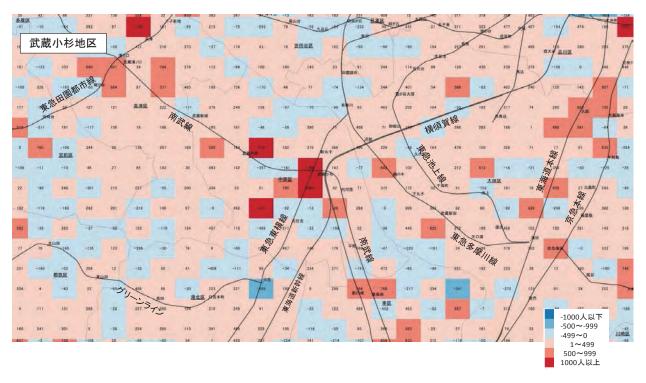


図 6-4-3 500mメッシュ別人口の変化(H27-H22) (武蔵小杉地区)

(2)中京圏

①分析対象地区 · 駅

分析対象とする地区及び駅は以下のとおりである。

• 名古屋駅周辺地区

表 6-4-2 分析対象地区及び駅

地区名	事業者名	路線名	駅名
	東海旅客鉄道	東海道本線	名古屋
	東海旅客鉄道	関西本線	名古屋
	東海旅客鉄道	中央本線	名古屋
	東海旅客鉄道	東海道新幹線	名古屋
名古屋駅周辺地区	名古屋市交通局	東山線	名古屋
	名古屋市交通局	桜通線	名古屋
	名古屋鉄道	名古屋本線	名鉄名古屋
	近畿日本鉄道	名古屋線	近鉄名古屋
	名古屋臨海高速鉄道	あおなみ線	名古屋

②地区別初乗り人員・最終降車人員の変化

• 名古屋駅周辺地区では、定期券利用者の最終降車人員が最近5年間で22%増加した。



(単位:人/日)

地区	区分	H 17	H 22	H 27	H 27/H 22
名古屋駅周辺地区	初乗り人員	5,968	4,144	3,946	0.95
	最終降車人員	90,525	72,740	88,616	1.22

図 6-4-4 大規模開発地区の周辺駅の初乗り・最終降車人員の推移(定期券利用者)

③最終降車人員の居住地分布、初乗り人員の目的地分布の変化

- 大規模開発地区の最終降車人員を出発地ブロック別にみると、名古屋駅周辺地区は、名 古屋市その他区部からの定期券利用者が多く、最近5年間で増加している。
- その他地域では、海部津島、尾張西部、尾張北部、知多、北勢南部等からも5千人程度 の定期券利用者がある。

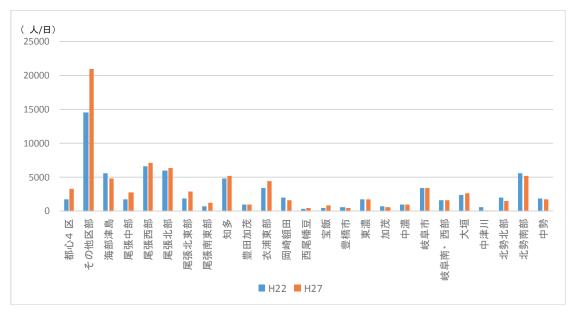


図 6-4-5 各地区の最終降車人員の居住地分布、又は初乗り人員の目的地分布の推移(定期券利用)

(3)近畿圏

①分析対象地区·駅

分析対象とする地区及び駅は以下のとおりである。

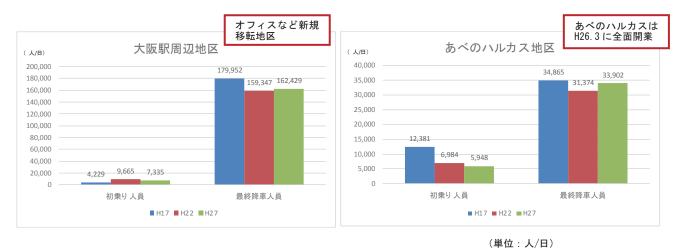
- · 大阪駅周辺地区
- あべのハルカス地区

表 6-4-3 分析対象地区及び駅

地区名	事業者名	路線名	駅名
	西日本旅客鉄道	東海道本線	大阪
	西日本旅客鉄道	大阪環状線	大阪
	西日本旅客鉄道	福知山線	大阪
	阪神電気鉄道	本線	梅田
	阪神電気鉄道	本線	福島
	阪急電鉄	神戸本線	梅田
大阪駅周辺地区	阪急電鉄	神戸本線	中津
八败机间边地区	阪急電鉄	宝塚本線	梅田
	阪急電鉄	宝塚本線	中津
	阪急電鉄	京都本線	梅田
	大阪市交通局	御堂筋線	中津
	大阪市交通局	御堂筋線	梅田
	大阪市交通局	谷町線	東梅田
	大阪市交通局	四つ橋線	西梅田
	西日本旅客鉄道	大阪環状線	天王寺
	西日本旅客鉄道	関西本線	天王寺
	西日本旅客鉄道	阪和線	天王寺
	近畿日本鉄道	南大阪線	大阪阿部野橋
あべのハルカス地区	大阪市交通局	御堂筋線	天王寺
	大阪市交通局	谷町線	天王寺
	大阪市交通局	谷町線	阿倍野
	阪堺電気軌道	上町線	天王寺駅前
	阪堺電気軌道	上町線	阿倍野

②地区別初乗り人員・最終降車人員の変化

- 大阪駅周辺地区では、最終降車人員が最近5年間で2%増加した。
- あべのハルカス地区では、最終降車人員が最近5年間で8%増加した。



地区	区分	H 17	H 22	H 27	H 27/H 22
大阪駅周辺地区	初乗り人員	4,229	9,665	7,335	0.76
人的父母人们 2010 E	最終降車人員	179,952	159,347	162,429	1.02
あべのハルカス	初乗り人員	12,381	6,984	5,948	0.85
地区	最終降車人員	34,865	31,374	33,902	1.08

図 6-4-6 大規模開発地区の周辺駅の初乗り・最終降車人員の推移(定期券利用者)

③最終降車人員の居住地分布、初乗り人員の目的地分布の変化

- 大規模開発地区の最終降車人員を出発地ブロック別にみると、大阪駅周辺地区は、大阪 市北東部、大阪市その他区部、阪神臨海地域からの定期券利用者が多い。
- あべのハルカス地区は、大阪市その他区部、南河内、泉北、北和からの定期券利用者が 多く、大阪市その他区部からの定期券利用者が最近5年間で増加している。

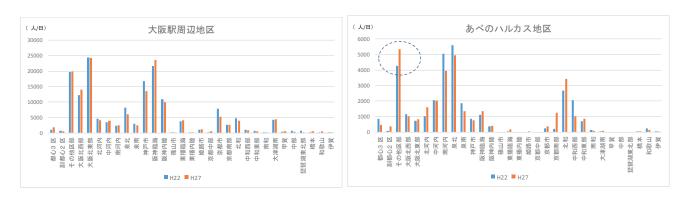


図 6-4-7 各地区の最終降車人員の居住地分布、又は初乗り人員の目的地分布の推移(定期券利用)



第7章 鉄道端末に関する分析

本章では、鉄道端末交通手段に関する分析として、自宅から利用駅までの距離と利用交通手段との関係や駅勢圏についての分析を行った。なお、時系列集計を行うため、定期券発売実績による拡大マスターデータを使用し、分析対象は定期券利用者としている。

7-1 鉄道端末交通手段の利用状況に関する分析

(1) 距離帯別にみた鉄道端末交通手段

1)首都圏

- ・ 駅までの距離が 1 km 未満では、徒歩の利用割合が最も高く、 $1 \sim 2 \text{ km}$ では徒歩に加え 自転車の利用割合が高くなる。 2 km 以上ではバスの利用割合が高くなっている。
- 手段別にみると、徒歩は2 km以内が多く、自転車は2 km以上の利用が52%を占める。バイク、車、バスは2 km以上での利用が $7 \sim 8$ 割を占めている。

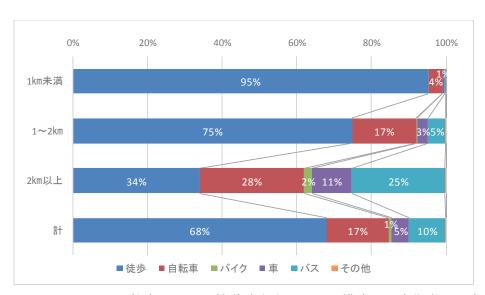


図 7-1-1 駅からの距離帯別にみた鉄道端末交通手段別構成比(定期券利用者)

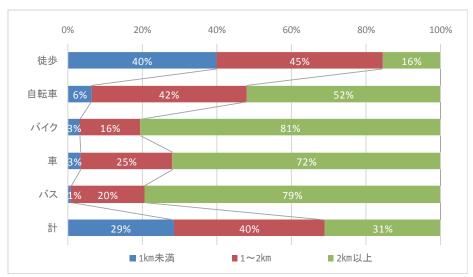


図 7-1-2 鉄道端末交通手段別にみた駅からの距離帯別構成比(定期券利用者)

注)端末距離は居住地町丁目~利用駅までの道路距離を計測した。(幅員5.5m以上道路を対象、一方通行規制を考慮)

②中京圏

- 駅までの距離が 1 km 未満では、徒歩の利用割合が最も高く、 $1 \sim 2 \text{ km}$ では自転車の利用割合が最も高くなる。 2 km 以上では車の利用割合が最も高くなっている。
- 手段別にみると、徒歩は1km未満が多く、自転車は1~2kmでの利用が45%を占める。バイク、車は2km以上での利用が約5割、バスは2km以上での利用が約7割を占めている。

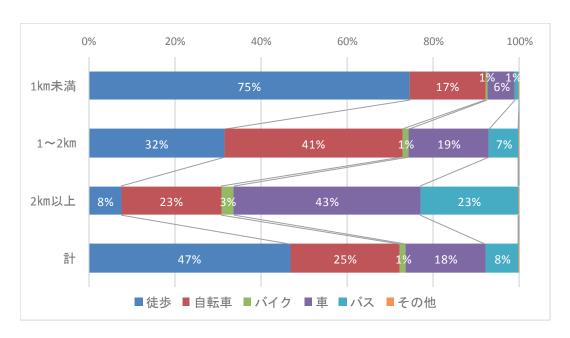


図 7-1-3 駅からの距離帯別にみた鉄道端末交通手段別構成比(定期券利用者)

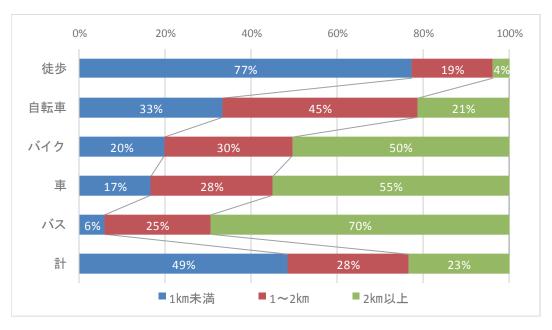


図 7-1-4 鉄道端末交通手段別にみた駅からの距離帯別構成比(定期券利用者)

注)端末距離は居住地町丁目~利用駅までの道路距離を計測した。(幅員5.5m以上道路を対象、一方通行規制を考慮)

③近畿圏

- ・ 駅までの距離が 1 km 未満では、徒歩の利用割合が最も高く、 $1 \sim 2 \text{ km}$ では徒歩に加え 自転車の利用割合が高くなる。 2 km 以上ではバスの利用割合が最も高くなっている。
- 手段別にみると、徒歩は1 km未満で多く、自転車は $1 \sim 2 \text{ km}$ の利用が50%を占める。バイク、車、バスは2 km以上での利用が5割を占めている。

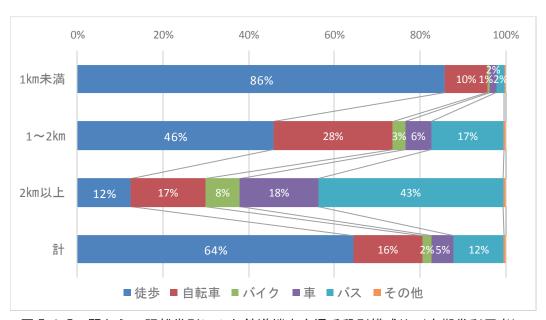


図 7-1-5 駅からの距離帯別にみた鉄道端末交通手段別構成比(定期券利用者)

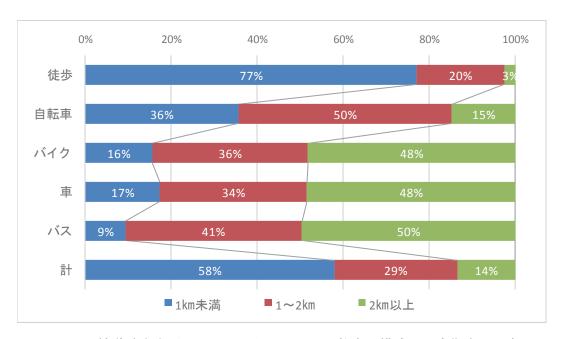


図 7-1-6 鉄道端末交通手段別にみた駅からの距離帯別構成比(定期券利用者)

注)端末距離は居住地町丁目~利用駅までの道路距離を計測した。(幅員5.5m以上道路を対象、一方通行規制を考慮)

7-2 駅勢圏に関する分析

(1)路線別駅勢圏の状況

主要路線について、ゾーン別の路線利用割合、路線利用密度を集計し、路線毎の駅勢圏を 把握した。

<指標の算定式>

・ゾーン別路線利用割合 = 沿線ゾーン (出発地ゾーン) から対象路線を利用する利用 者数÷沿線ゾーンの鉄道利用者総数 (%)

(定期券利用者(通勤・通学))

・ゾーン別路線利用密度 = 沿線ゾーン (出発地ゾーン) から対象路線を利用する利用 者数÷沿線ゾーンの面積 (人/km²)

(定期券利用者(通勤・通学))

分析対象とした路線は以下のとおりである。

(首都圏)

- ① J R 中央線、② J R 山手線、③西武新宿線、④京王線、⑤大江戸線、⑥東西線、⑦京 浜急行本線、⑧小田急線、⑨田園都市線、⑩東武東上線、⑪京成本線、⑫相模鉄道本線 (中京圏)
- ① J R 東海道本線、② J R 中央本線、③東山線、④名鉄名古屋本線、⑤近鉄名古屋線 (近畿圏)
- ① J R 東海道本線、② J R 大阪環状線、③御堂筋線、④烏丸線、⑤西神・山手線、⑥近鉄奈良線、⑦高野線、⑧阪神本線、⑨阪急京都本線、⑩京阪本線

1)首都圏

①JR中央線

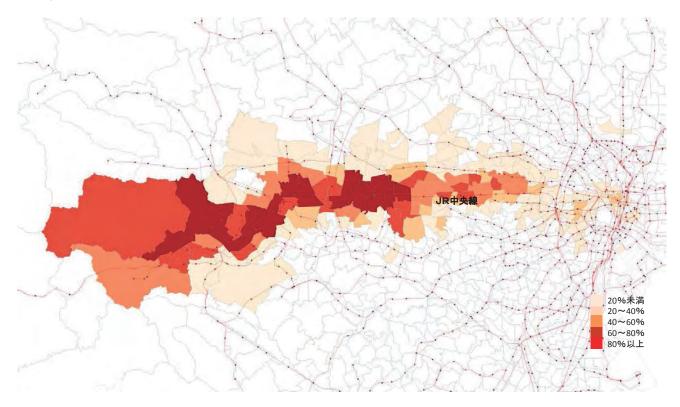


図 7-2-1 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者)(首都圏)

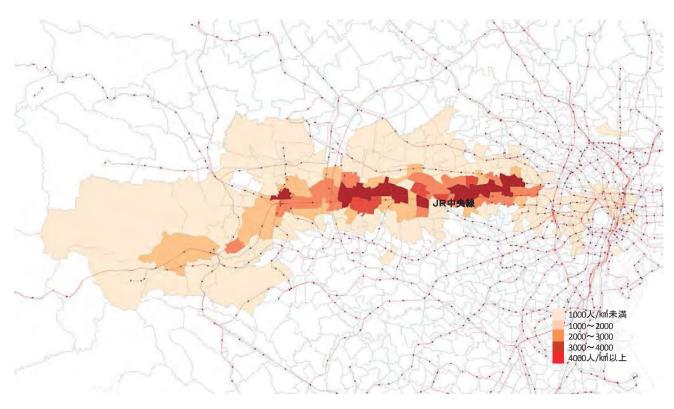


図 7-2-2 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者)(首都圏)

② J R 山手線

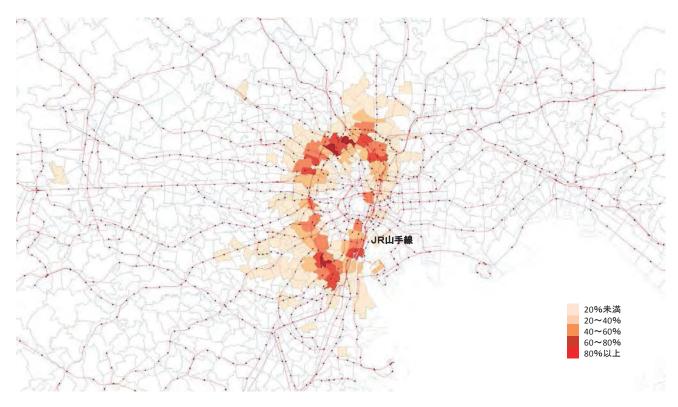


図 7-2-3 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者)(首都圏)

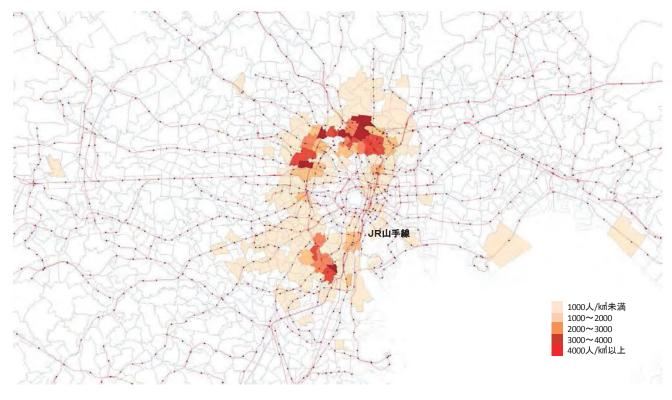


図 7-2-4 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者)(首都圏)

③西武新宿線

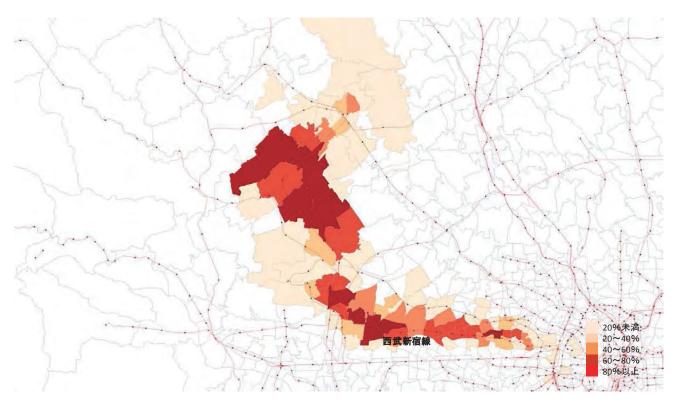


図 7-2-5 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者)(首都圏)

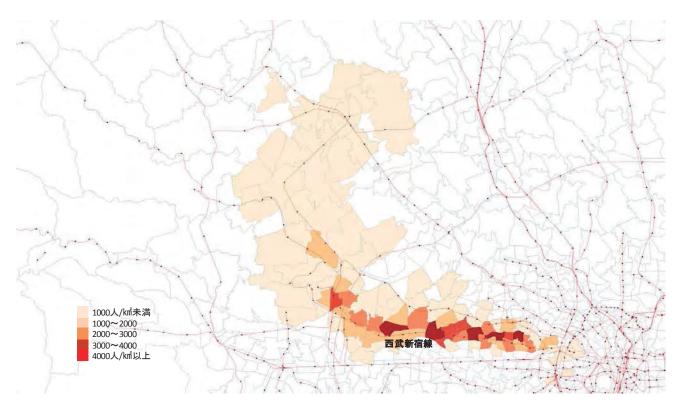


図 7-2-6 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者)(首都圏)

④京王線

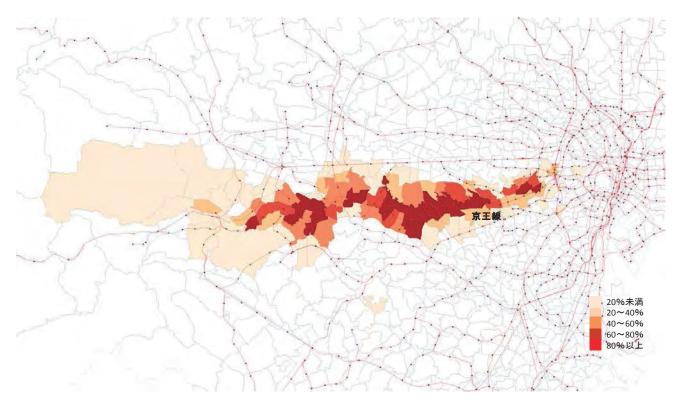


図 7-2-7 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者)(首都圏)

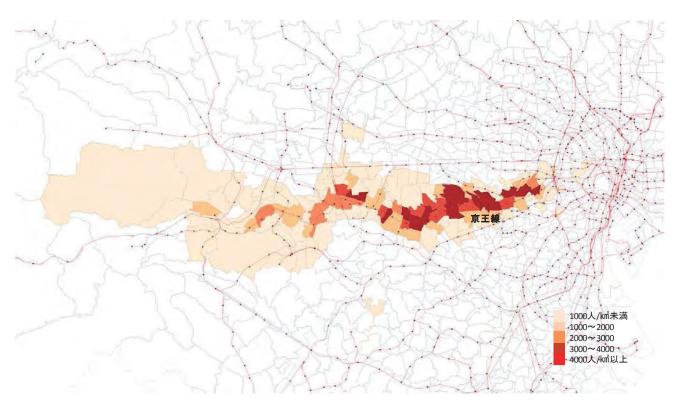


図 7-2-8 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者)(首都圏)

⑤大江戸線

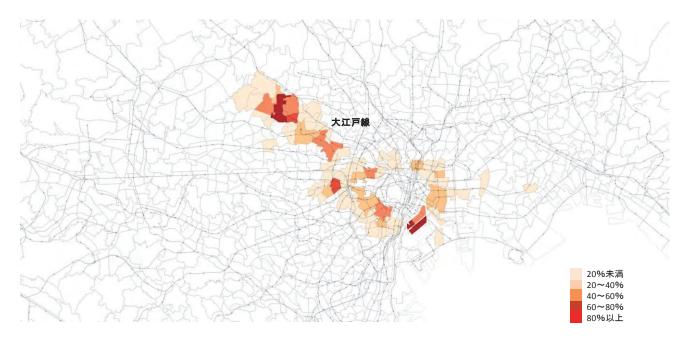


図 7-2-9 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (首都圏)

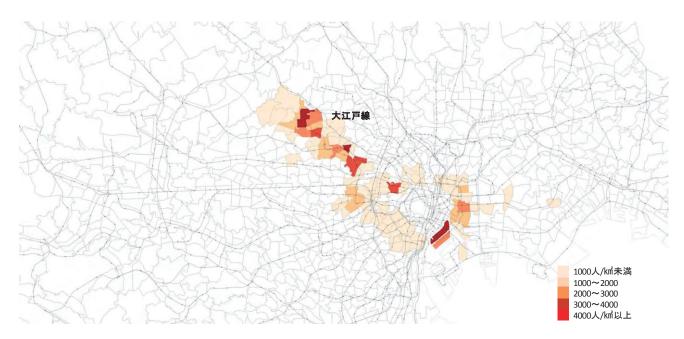


図 7-2-10 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (首都圏)

⑥東西線

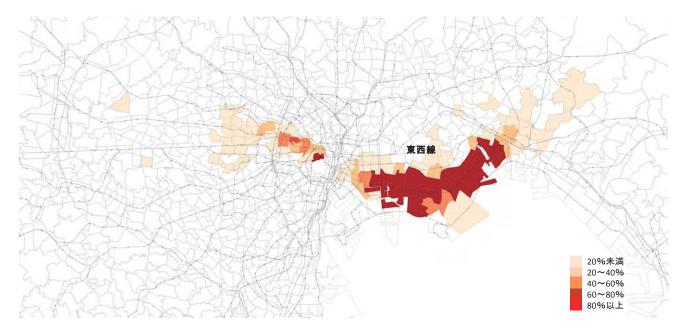


図 7-2-11 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (首都圏)

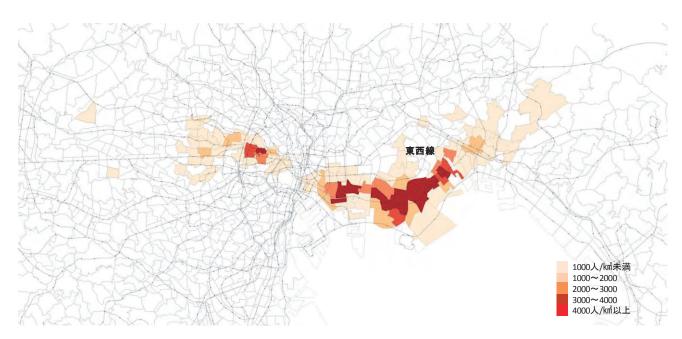


図 7-2-12 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (首都圏)

⑦京浜急行本線

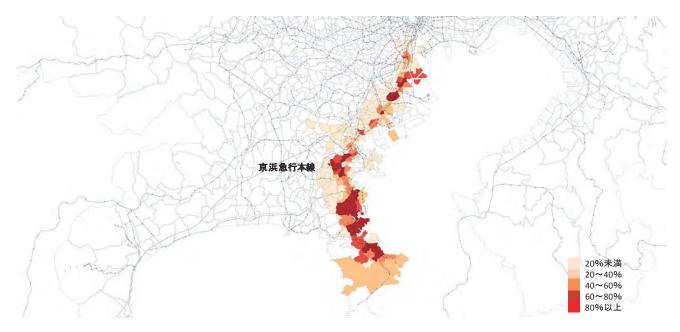


図 7-2-13 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (首都圏)

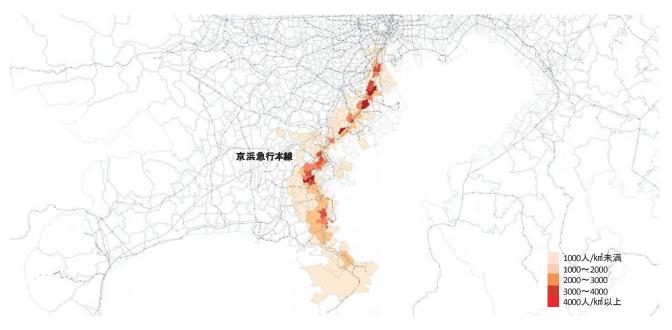


図 7-2-14 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (首都圏)

⑧小田急線

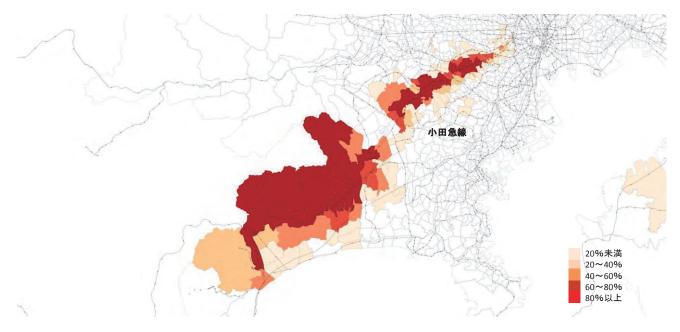


図 7-2-15 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (首都圏)

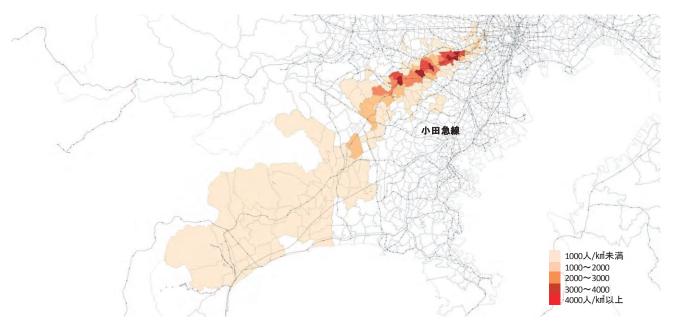


図 7-2-16 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (首都圏)

⑨田園都市線

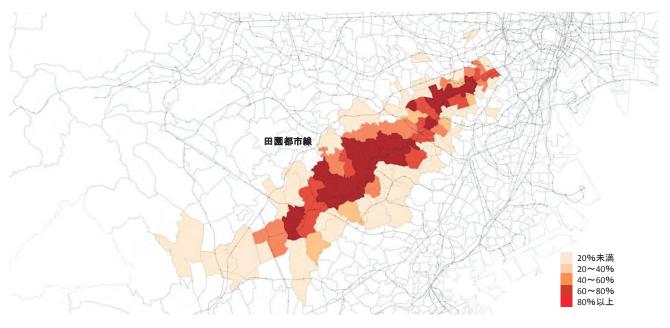


図 7-2-17 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (首都圏)

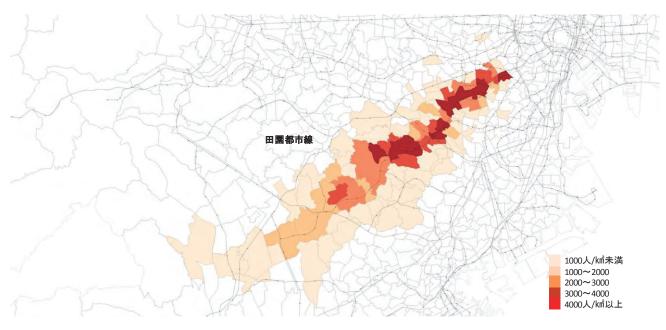


図 7-2-18 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (首都圏)

⑩東武東上線

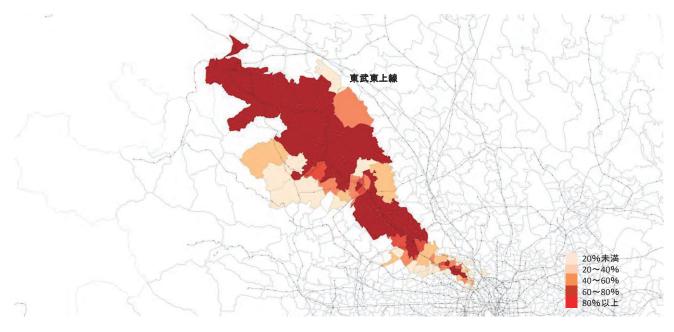


図 7-2-19 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (首都圏)

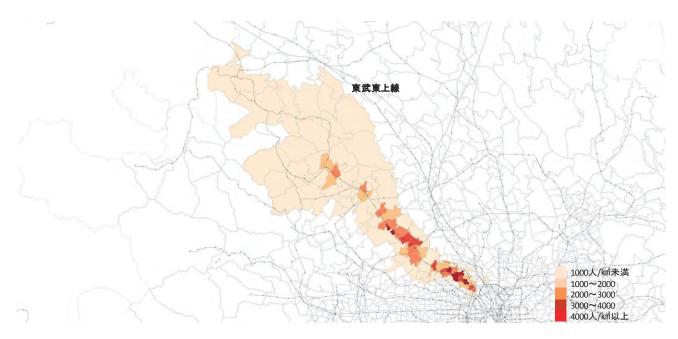


図 7-2-20 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (首都圏)

⑪京成本線

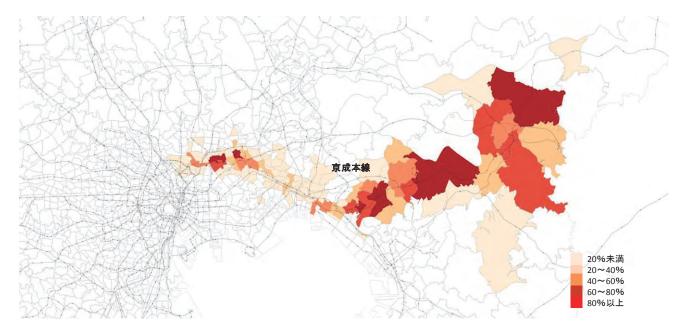


図 7-2-21 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者)(首都圏)

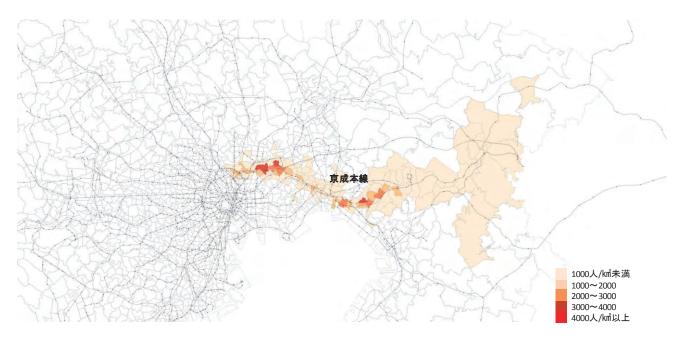


図 7-2-22 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (首都圏)

⑫相模鉄道本線

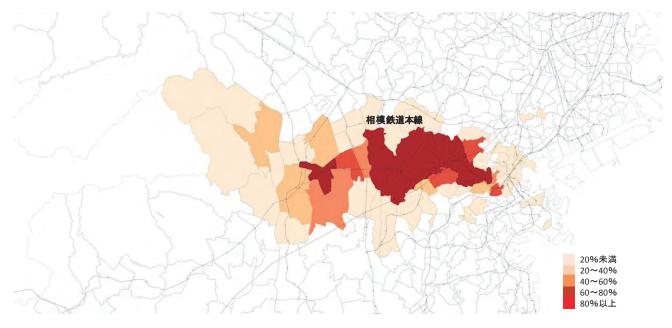


図 7-2-23 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (首都圏)

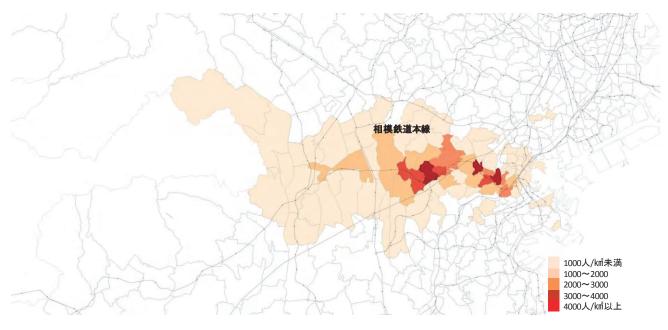


図 7-2-24 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (首都圏)

2) 中京圏

① J R 東海道本線

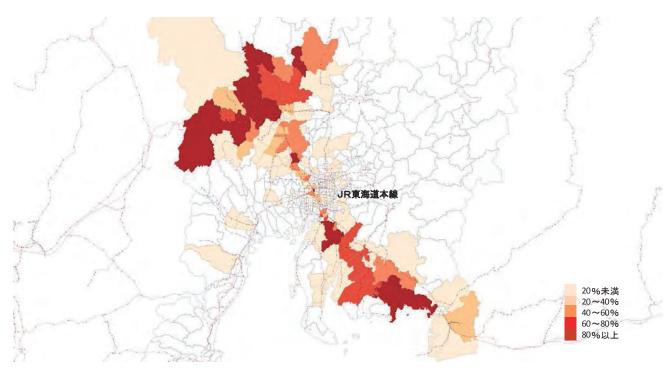


図 7-2-25 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (中京圏)

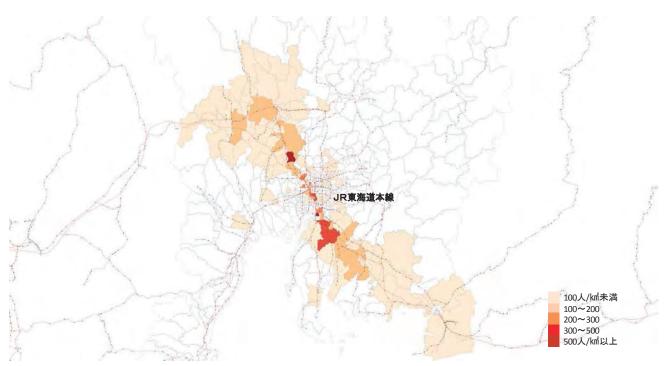


図 7-2-26 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (中京圏)

② J R 中央本線

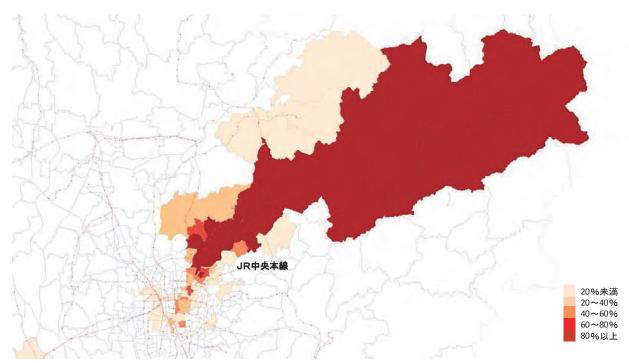


図 7-2-27 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (中京圏)

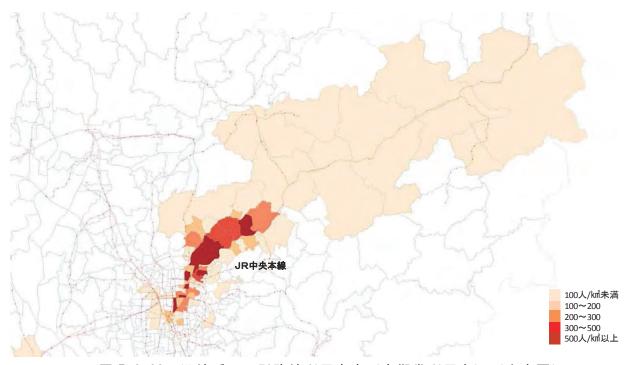


図 7-2-28 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者)(中京圏)

③東山線

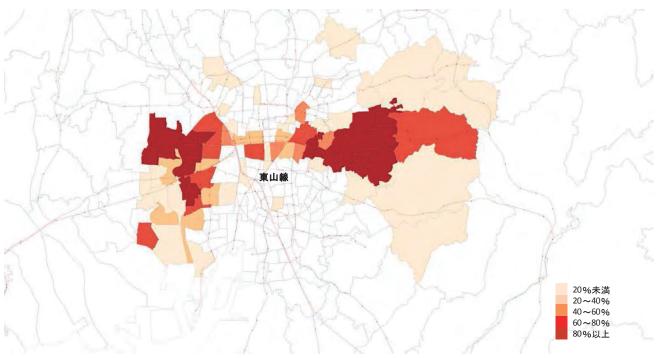


図 7-2-29 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (中京圏)

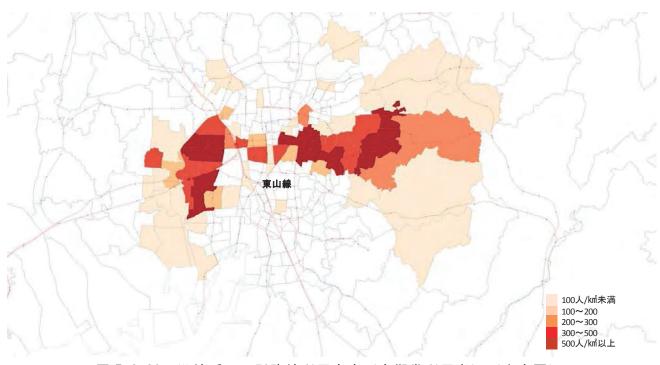


図 7-2-30 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (中京圏)

④名鉄名古屋本線

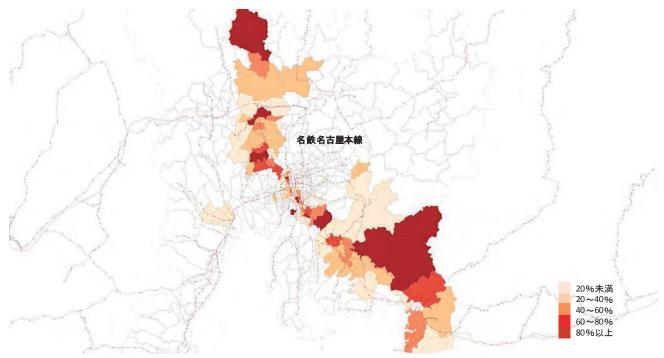


図 7-2-31 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (中京圏)



図 7-2-32 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (中京圏)

⑤近鉄名古屋線

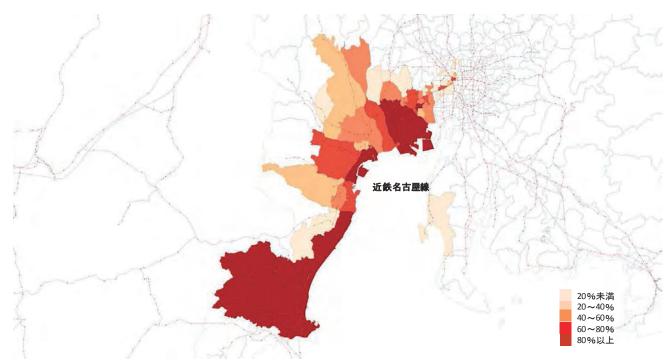


図 7-2-33 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (中京圏)

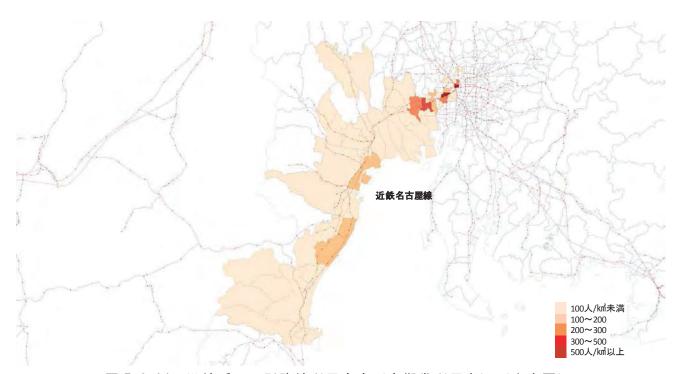


図 7-2-34 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者)(中京圏)

3) 近畿圏

① J R 東海道本線

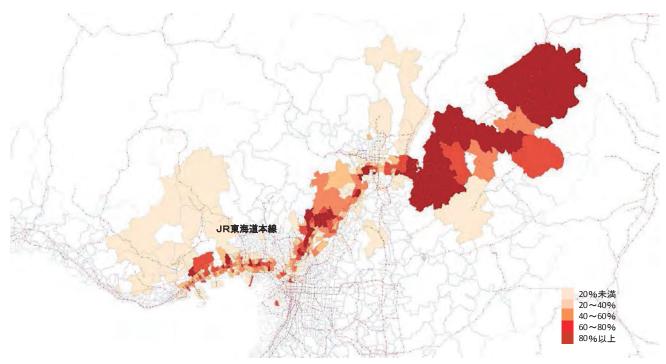


図 7-2-35 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (近畿圏)

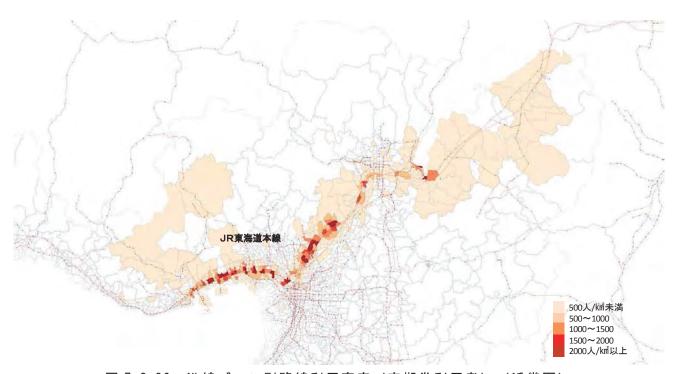


図 7-2-36 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (近畿圏)

② J R 大阪環状線

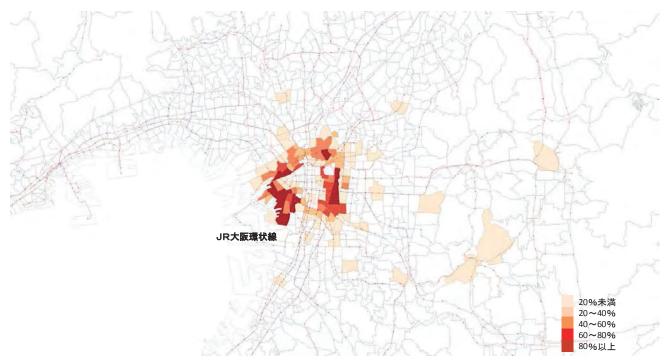


図 7-2-37 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者)(近畿圏)

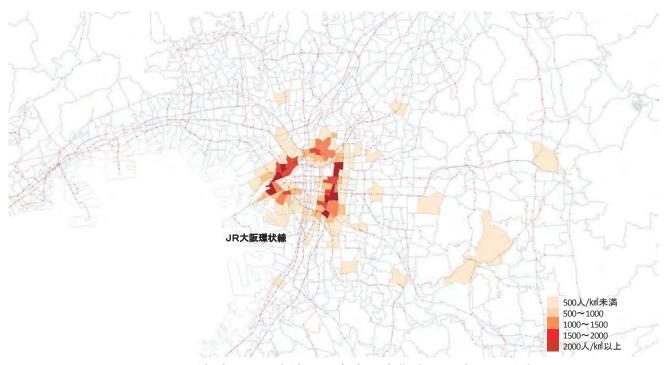


図 7-2-38 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (近畿圏)

③御堂筋線

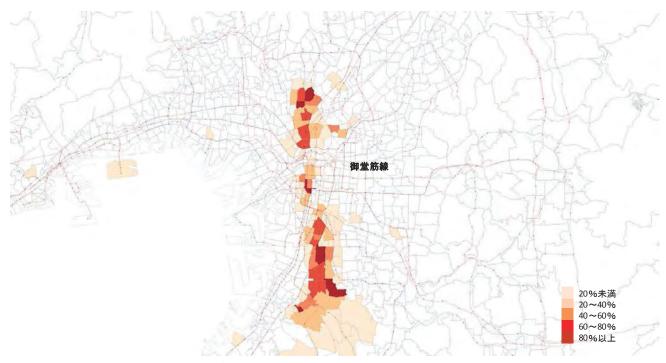


図 7-2-39 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (近畿圏)

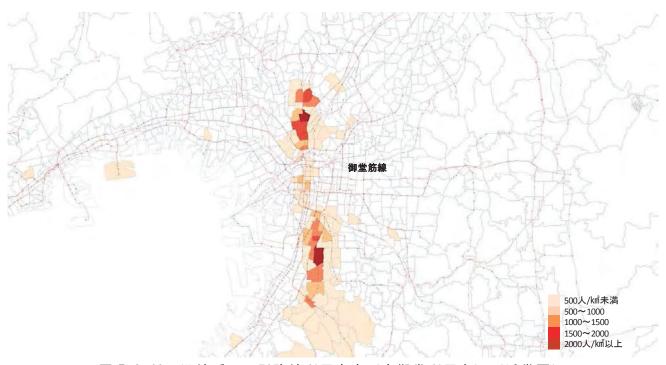


図 7-2-40 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (近畿圏)

④烏丸線

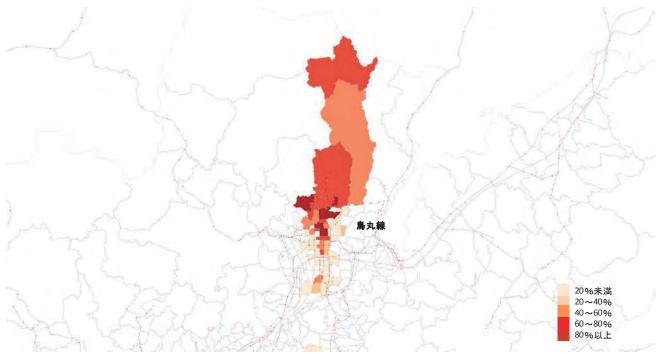


図 7-2-41 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (近畿圏)

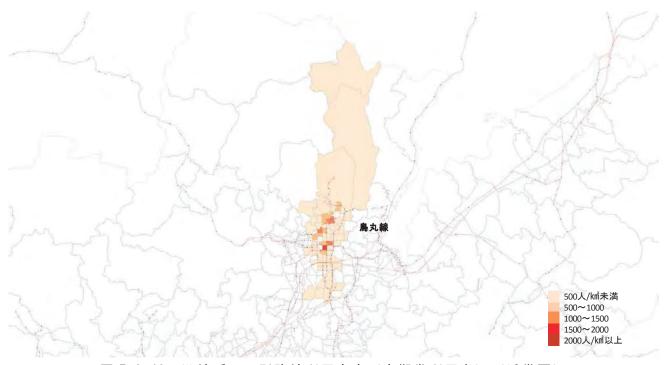


図 7-2-42 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (近畿圏)

⑤西神·山手線

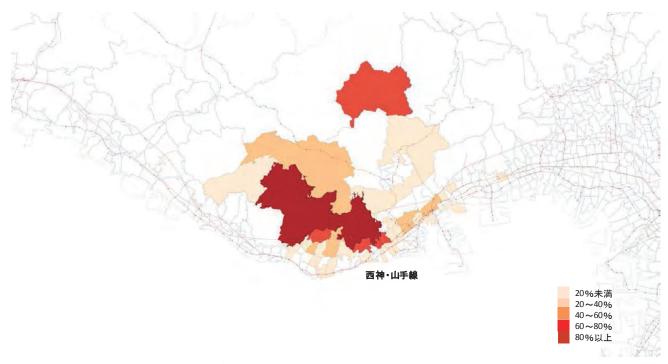


図 7-2-43 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (近畿圏)

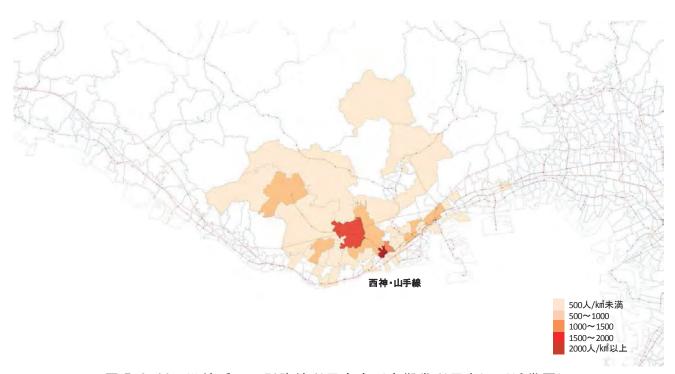


図 7-2-44 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (近畿圏)

⑥近鉄奈良線

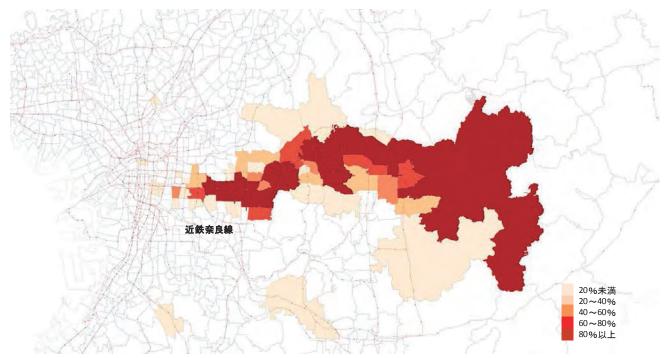


図 7-2-45 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (近畿圏)

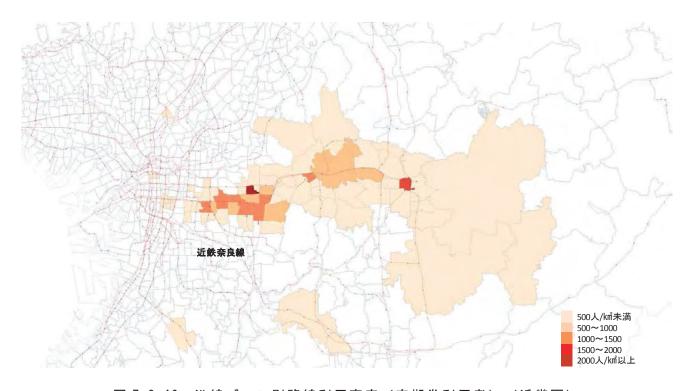


図 7-2-46 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (近畿圏)

⑦高野線

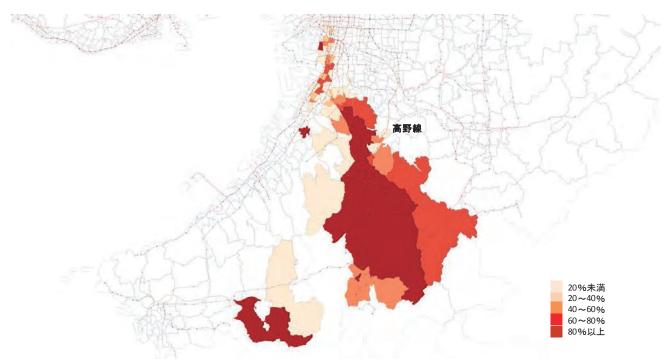


図 7-2-47 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (近畿圏)

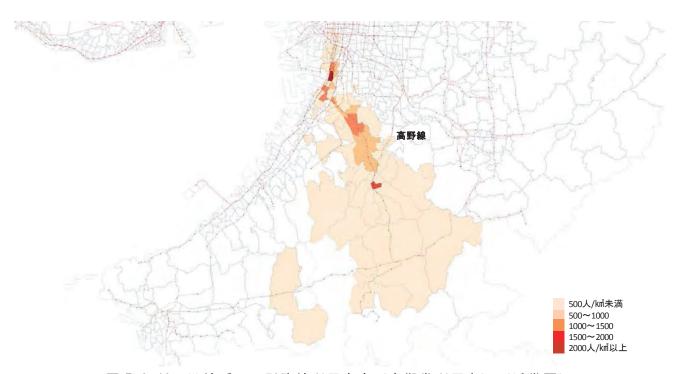


図 7-2-48 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (近畿圏)

⑧阪神本線

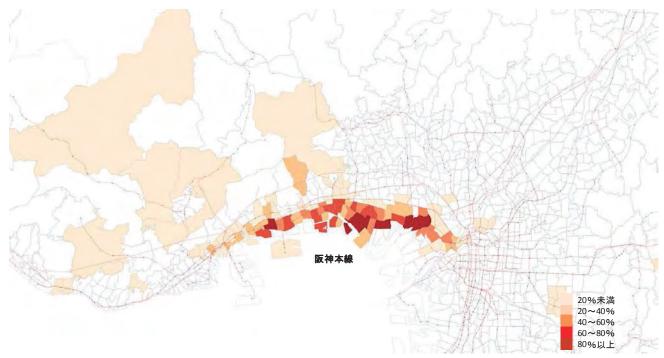


図 7-2-49 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者) (近畿圏)

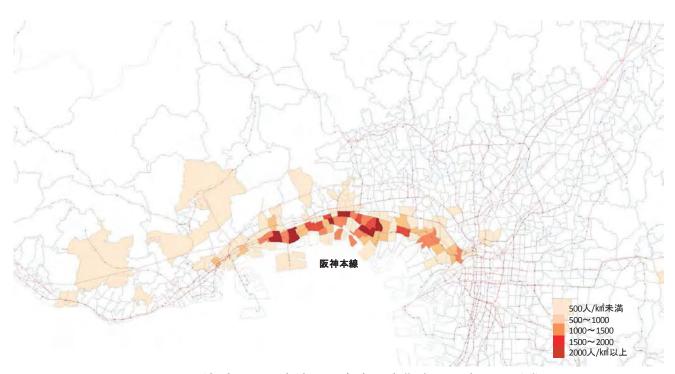


図 7-2-50 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (近畿圏)

⑨阪急京都本線

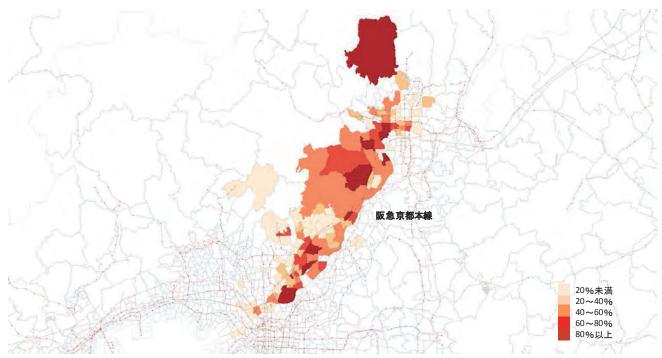


図 7-2-51 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者)(近畿圏)

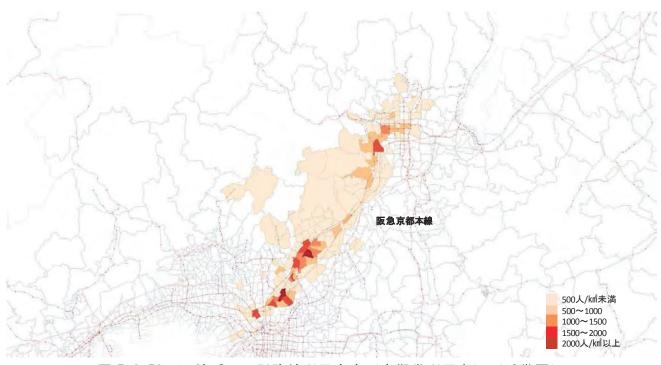


図 7-2-52 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (近畿圏)

⑩京阪本線

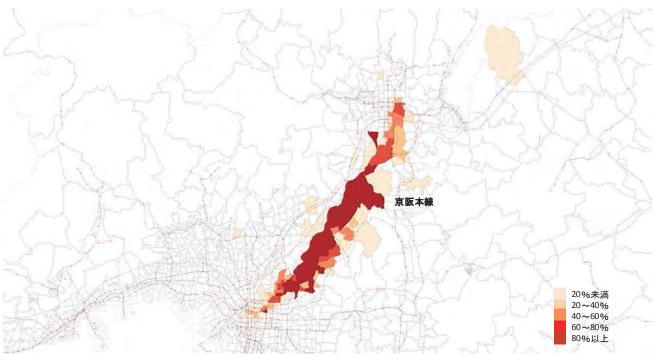


図 7-2-53 沿線ゾーン別路線利用割合(定期券利用者)(近畿圏)

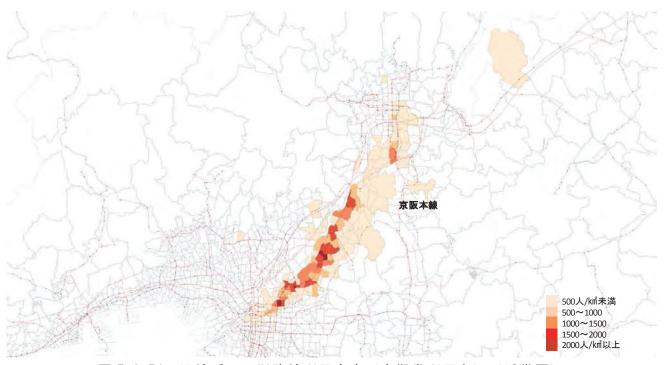


図 7-2-54 沿線ゾーン別路線利用密度(定期券利用者) (近畿圏)

(2) 地域別の鉄道利用状況

地域別にみた定期券利用者の初乗り・最終降車での鉄道利用状況を把握した。

<指標の算定式>

- ・ゾーン別初乗り乗車密度 = 出発地ゾーン別初乗り乗車人員(定期券利用者(通勤・通学)) ÷沿線ゾーンの面積(人/km²)
- ・ゾーン別最終降車密度 = 到着地ゾーン別最終降車人員(定期券利用者(通勤・通学)) ÷沿線ゾーンの面積(人/km²)

ゾーン別初乗り乗車密度、最終降車密度は、東京都 23 区、名古屋市、大阪市を分析対象地域とした。

(首都圏)

- ①東京都 23 区
- (中京圏)
- ①名古屋市
- (近畿圏)
- ①大阪市

1)首都圏

<初乗り乗車密度>

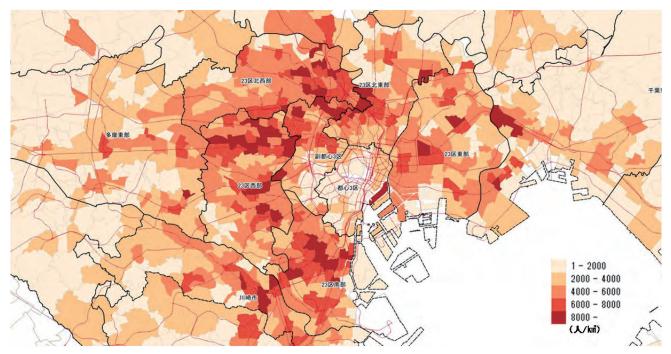


図 7-2-55 ゾーン別初乗り乗車密度(定期券利用者(通勤・通学))(東京都 23 区)(首都圏)

<最終降車密度>

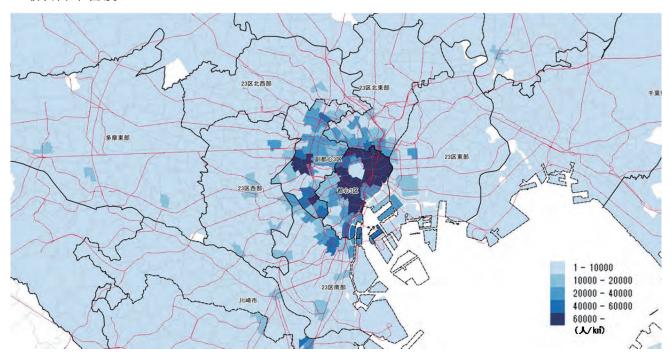


図 7-2-56 ゾーン別最終降車密度(定期券利用者(通勤・通学)) (東京都 23 区) (首都圏)

2) 中京圏

<初乗り乗車密度>

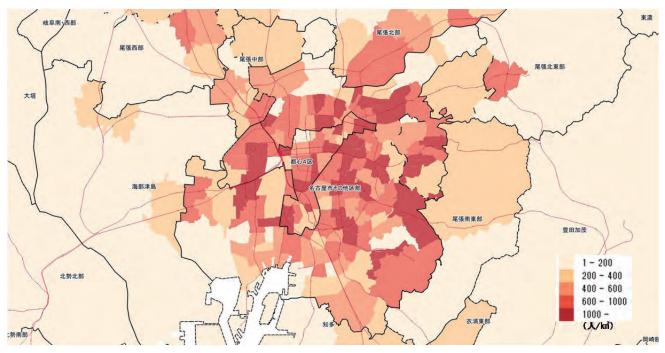


図 7-2-57 ゾーン別初乗り乗車密度(定期券利用者(通勤・通学)) (名古屋市) (中京圏)

<最終降車密度>

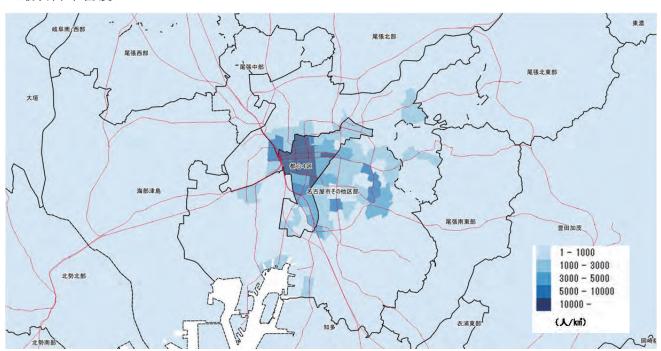


図 7-2-58 ゾーン別最終降車密度(定期券利用者(通勤・通学)) (名古屋市) (中京圏)

3) 近畿圏

<初乗り乗車密度>

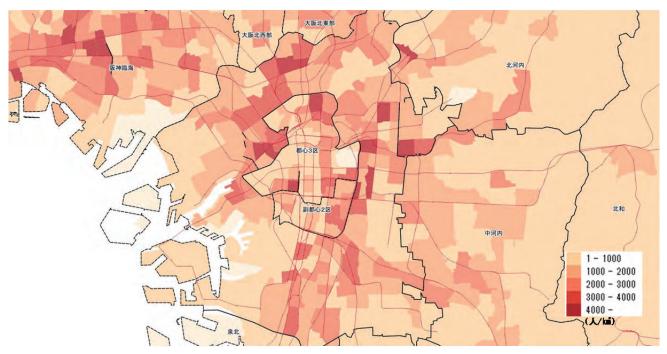


図 7-2-59 ゾーン別初乗り乗車密度(定期券利用者(通勤・通学)) (大阪市) (近畿圏)

<最終降車密度>

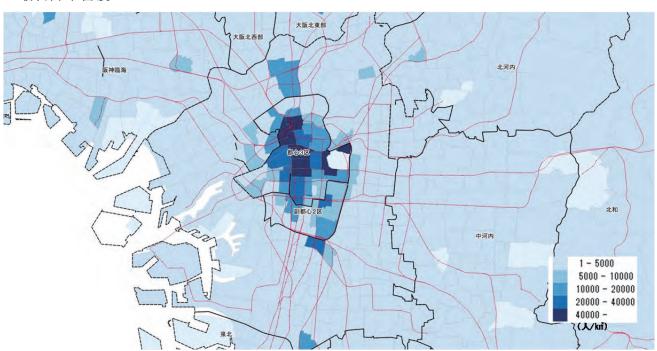


図 7-2-60 ゾーン別最終降車密度(定期券利用者(通勤・通学)) (大阪市) (近畿圏)

(3) 主要ターミナル駅の鉄道利用状況

主要ターミナル駅を対象として、定期券利用者の最終降車での鉄道利用状況を把握した。

<指標の算定式>

- ・ゾーン別最終降車人員=到着地ゾーン別最終降車人員(定期券利用者(通勤・通学)) ※ゾーン面積での基準化は行っていない。
- 分析対象としたターミナルは以下のとおりである。

(首都圏)

- ①東京関連(東京、大手町、二重橋前)
- ②新宿関連(新宿、新宿三丁目、新宿西口、西武新宿)
- ③渋谷
- ④池袋
- ⑤横浜
- (中京圏)
- ①名古屋(名古屋、名鉄名古屋、近鉄名古屋)
- ②金山
- ③大曽根
- (近畿圏)
- ①大阪·梅田(大阪、梅田)
- ②天王寺(天王寺、天王寺駅前、大阪阿部野橋)
- ③難波 (難波、なんば、大阪難波)
- ④京橋

1)首都圏

①東京関連 (東京、大手町、二重橋前)

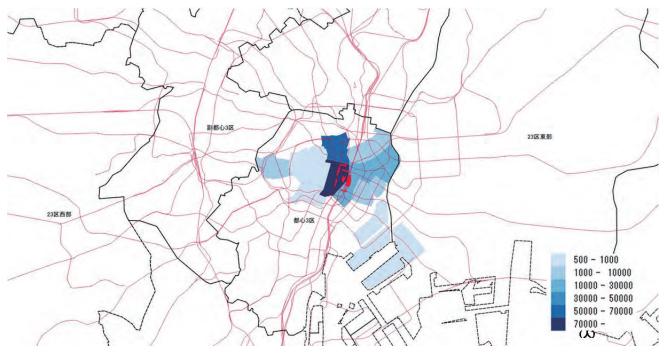


図 7-2-61 ゾーン別最終降車人員(定期券利用者(通勤・通学)) (東京関連)

②新宿関連(新宿、新宿三丁目、新宿西口、西武新宿)

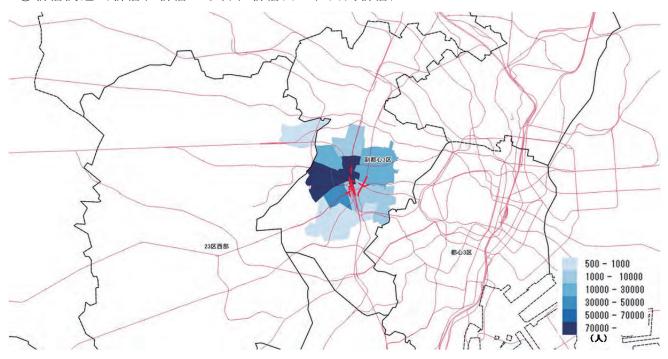


図 7-2-62 ゾーン別最終降車人員 (定期券利用者 (通勤・通学)) (新宿関連)

③渋谷

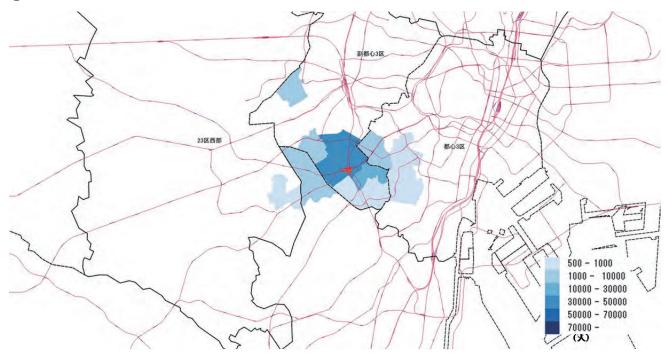


図 7-2-63 ゾーン別最終降車人員 (定期券利用者 (通勤・通学)) (渋谷)

4池袋

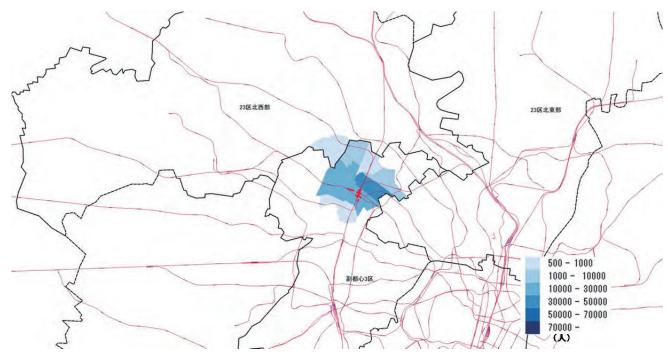


図 7-2-64 ゾーン別最終降車人員 (定期券利用者 (通勤・通学)) (池袋)

⑤横浜

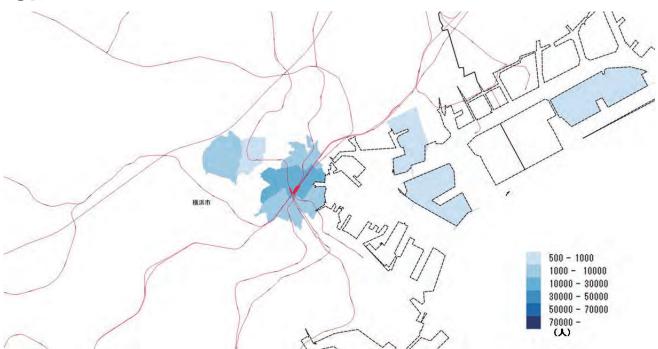


図 7-2-65 ゾーン別最終降車人員 (定期券利用者 (通勤・通学)) (横浜)

2) 中京圏

①名古屋(名古屋、名鉄名古屋、近鉄名古屋)

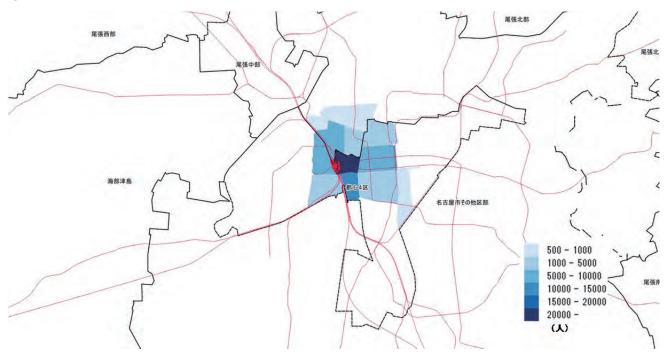


図 7-2-66 ゾーン別最終降車人員(定期券利用者(通勤・通学)) (名古屋)

②金山

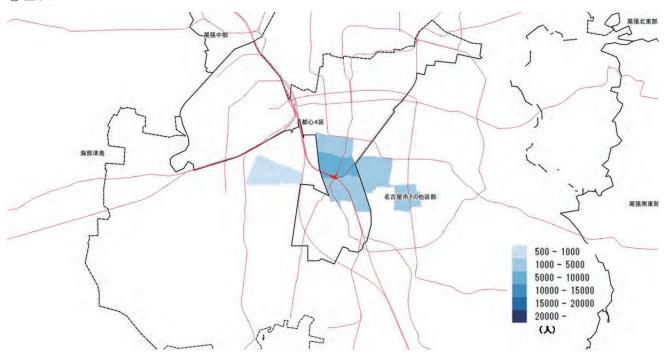


図 7-2-67 ゾーン別最終降車人員 (定期券利用者 (通勤・通学)) (金山)

③大曽根

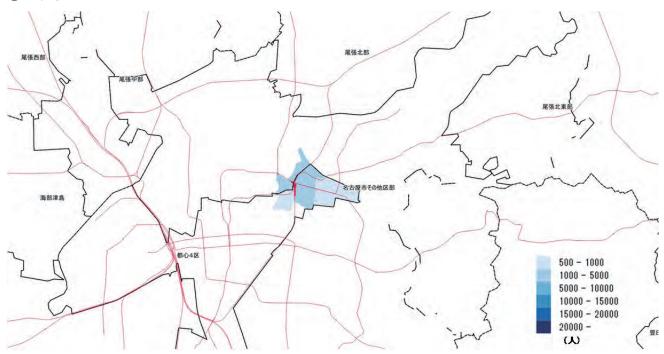


図 7-2-68 ゾーン別最終降車人員(定期券利用者(通勤・通学)) (大曽根)

3) 近畿圏

①大阪・梅田 (大阪、梅田)

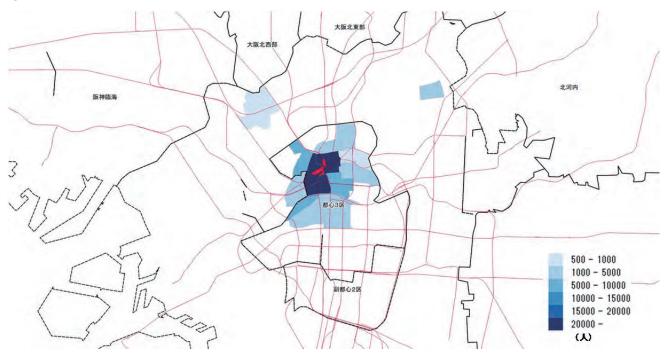


図 7-2-69 ゾーン別最終降車人員(定期券利用者(通勤・通学)) (大阪・梅田)

②天王寺(天王寺、天王寺駅前、大阪阿倍野橋)



図 7-2-70 ゾーン別最終降車人員(定期券利用者(通勤・通学)) (天王寺)

③難波 (難波、なんば、大阪難波)

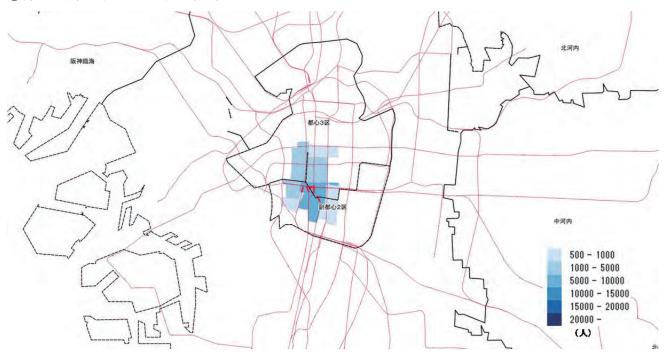


図 7-2-71 ゾーン別最終降車人員(定期券利用者(通勤・通学)) (難波)

4京橋

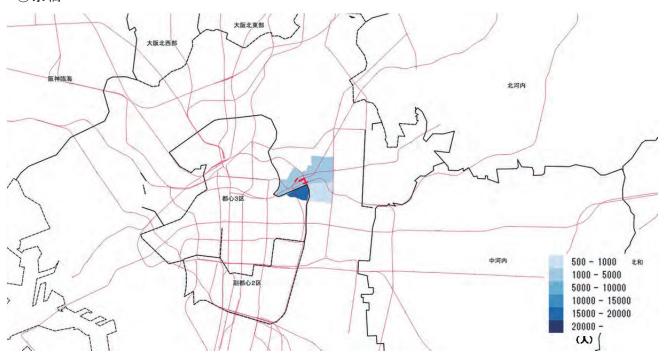


図 7-2-72 ゾーン別最終降車人員(定期券利用者(通勤・通学)) (京橋)